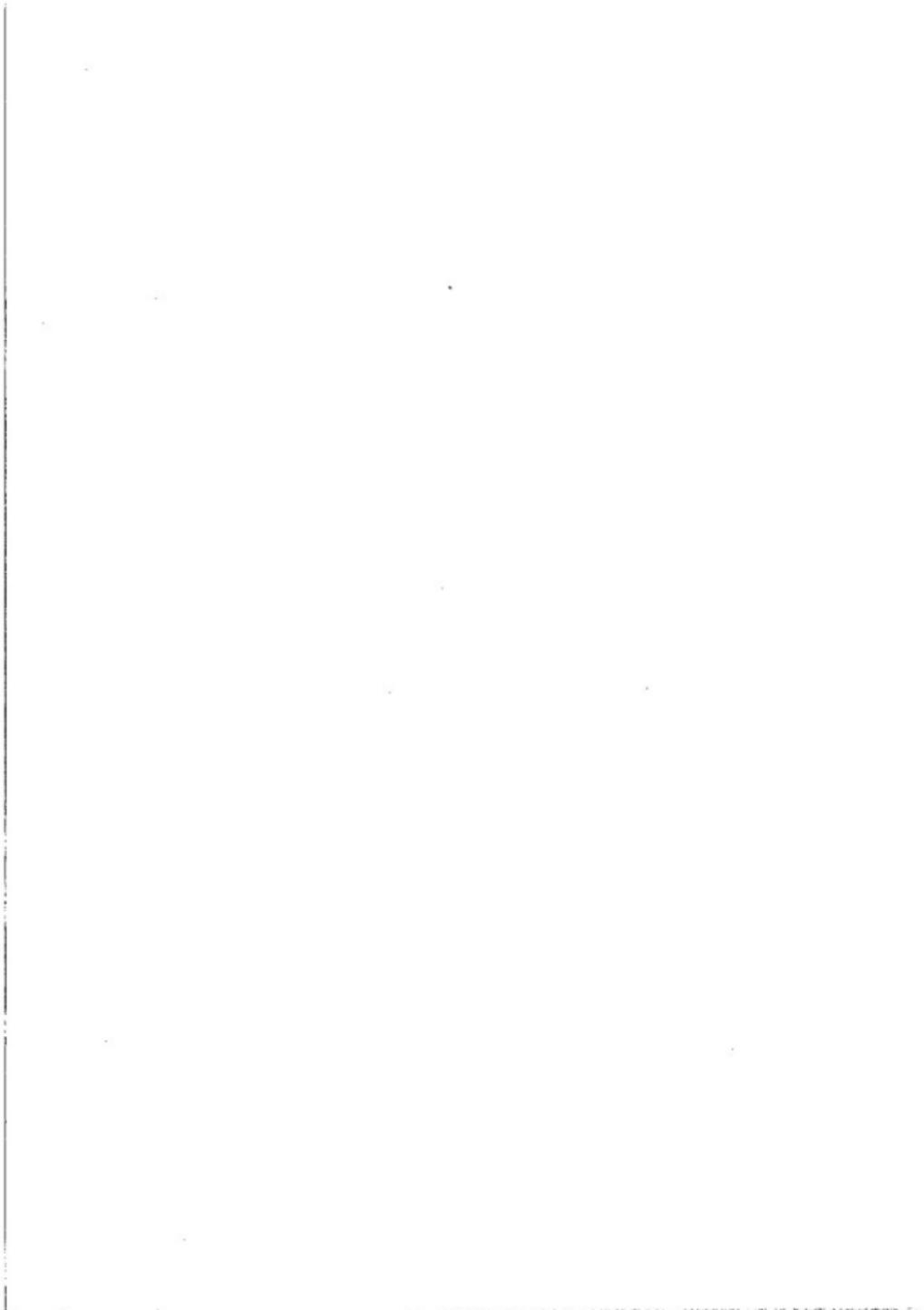


八尾市文化財調査報告19
昭和63年度国庫補助事業

八尾市内遺跡昭和63年度発掘調査報告書Ⅰ

1989.3

八尾市教育委員会



はしがき

八尾市は河内平野の中央部に位置し、古代より灘波と大和を結ぶ交通の要地であります。従って、市域には多数の遺跡が存在し、これらは古代史を解明する上で貴重な手がかりを我々に与えてくれます。しかし、近年の社会経済的変動による大阪都市圏への人口集中は耕地の宅地化を促がし、各種の土木建築工事なってあらわれており、その為、土中に埋もれている先人が残していく貴重な遺産の破壊散逸を招くこととなりました。

その様な状況に対し、当教育委員会は文化財保護の立場から開発により消滅が避けられない遺跡の調査を実施し、その概況を報告する次第であります。

最後にあたり、発掘調査開始から本報告に収録されるまでの間、多くの方々の御指導、御協力をいただいた事に対し深く感謝申し上げ、併せてこの概報が関係者の皆さんに活用されることを願って止みません。

平成元年三月

八尾市教育委員会

教育長 西谷信次

例　　言

1. 本書は、昭和63年度に八尾市内で実施した国庫補助事業に伴う埋蔵文化財調査の概要報告書である。
2. 発掘調査は八尾市教育委員会文化財室（室長 森田康夫）が原図者に協力を求めて実施した。調査は文化財室職員米田敏幸、近江俊秀（嘱託）が担当した。
3. 本書は当該年度に実施した埋蔵文化財調査を巻末の一覧表に記載し、これらのうち成果のあった13遺跡、24調査地の報告を収録した。
4. 調査に際しては、岡出清一、徳谷尚子、横山妙子、大場郁子、山田正和、中野久仁子、佐々木研、川上京子、中谷聖子の参加を得た。
5. 本書の作成は、米田、近江が分担執筆し、編集は近江が行なった。また、遺物実測は近江、徳谷、岡田が行ないトレースは近江が行なった。
6. 本調査期間中及び整理期間中には、下記の諸氏の御教示を得た。記して感謝したい。

(財)八尾市文化財調査研究会 高萩千秋、原田昌則

大阪府教育委員会 福田英人

(敬称略)

本文目次

1. 踵部遺跡(62-307)の調査	1
2. 恩智遺跡(62-529)の調査	6
3. 小阪合遺跡(63-051)の調査	11
4. 恩智遺跡(63-015)の調査	14
5. 成法寺遺跡(63-035)の調査	16
6. 山賀遺跡(62-543)の調査	19
7. 八尾南遺跡(63-084)の調査	22
8. 八尾南遺跡(63-075)の調査	24
9. 山賀遺跡(63-044)の調査	27
10. 楽音寺遺跡(63-157)の調査	29
11. 恩智遺跡(63-201)の調査	32
12. 老原遺跡(63-150)の調査	34
13. 久宝寺遺跡(63-245)の調査	36
14. 矢作遺跡(63-253)の調査	39
15. 郡川遺跡(63-193)の調査	42
16. 成法寺遺跡(63-307)の調査	49
17. 久宝寺遺跡(63-301)の調査	51
18. 東郷遺跡(63-312)の調査	53
19. 矢作遺跡(63-078)の調査	55
20. 東郷遺跡(63-209)の調査	58
21. 恩智遺跡(63-361)の調査	61
22. 小阪合遺跡(63-454)の調査	63
23. 渋川廃寺(63-474)の調査	65
24. 東郷遺跡(63-472)の調査	68

挿 図 目 次

第1図	八尾市内遺跡分布図(S=1/5万)	
第2図	調査地周辺図(S=1/10000)	1
第3図	調査区設定図(S=1/400)	2
第4図	調査地平面図(S=1/160)	3
第5図	土層断面図(S=1/160)	3
第6図	出土遺物実測図(S=1/4)	4
第7図	調査地周辺図(S=1/5000)	6
第8図	調査区設定図(S=1/600)	7
第9図	Cグリット平面図(S=1/40)	7
第10図	A地区南壁断面図(S=1/80)	8
第11図	Bグリット断面図(S=1/40)	8
第12図	Cグリット断面図(S=1/40)	8
第13図	出土遺物実測図(S=1/4)	9
第14図	Cグリット第7層出土石器(S=1/2)	10
第15図	調査地周辺図(S=1/10000)	11
第16図	南グリット出土遺物実測図(S=1/4)	12
第17図	調査区設定図(S=1/600)	12
第18図	南グリット平面図(S=1/40)	13
第19図	土層断面図(S=1/40)	13
第20図	調査地周辺図(S=1/5000)	14
第21図	調査区設定図(S=1/600)	15
第22図	南壁上層断面図(S=1/40)	15
第23図	調査地周辺図(S=1/10000)	16
第24図	調査地設定図(S=1/600)	17
第25図	調査地平面図(S=1/40)	17
第26図	出土遺物実測図(S=1/4)	17
第27図	土層断面図(S=1/40)	18
第28図	調査地周辺図(S=1/5000)	19
第29図	Cグリット出土遺物実測図(S=1/4)	20

第30図 調査区設定図(S=1/800)	20
第31図 基本層模式図(S=1/40)	21
第32図 調査地周辺図(S=1/10000)	22
第33図 調査区設定図(S=1/1000)	23
第34図 基本層序模式図(S=1/40)	23
第35図 調査地周辺図(S=1/10000)	24
第36図 東グリット出土遺物実測図(S=1/4)	25
第37図 調査区設定図(S=1/800)	26
第38図 基本層序模式図(S=1/40)	26
第39図 調査地周辺図(S=1/5000)	27
第40図 調査区設定図(S=1/800)	28
第41図 基本層序模式図(S=1/40)	28
第42図 調査地周辺図(S=1/5000)	29
第43図 調査区設定図(S=1/400)	30
第44図 調査区平面図(S=1/40)	30
第45図 包含層出土遺物(S=1/4)	31
第46図 土壙・Pit 実測図(S=1/40)	31
第47図 南北方向西壁土壙断面図(S=1/40)	31
第48図 調査地周辺図(S=1/10000)	32
第49図 調査区設定図(S=1/800)	33
第50図 基本層序模式図(S=1/40)	33
第51図 調査地周辺図(S=1/10000)	34
第52図 調査区設定図(S=1/800)	35
第53図 Cグリット河道出土遺物実測図(S=1/4)	35
第54図 基本層序模式図(S=1/40)	35
第55図 調査地周辺図(S=1/10000)	36
第56図 調査区設定図(S=1/2400)	37
第57図 Bグリット包含層出土遺物実測図(S=1/4)	37
第58図 基本層序模式図(S=1/40)	38
第59図 調査地周辺図(S=1/10000)	39
第60図 調査区設定図(S=1/800)	40
第61図 基本層序模式図(S=1/40)	41

第62図	調査地周辺図(S=1/5000)	42
第63図	調査区設定図(S=1/1000)	43
第64図	S D - 0 1 断面図(S=1/20)	43
第65図	S D - 0 2 断面図(S=1/20)	43
第66図	調査地平面図(S=1/100)	44
第67図	Pit・土塁断面図(S=1/40)	44
第68図	出土馬齒実測図(S=1/3)	45
第69図	上層断面図(S=1/80)	45
第70図	表採須器実測図(S=1/4)	46
第71図	表採土師器実測図(S=1/4)	47
第72図	調査地周辺図(S=1/10000)	49
第73図	調査区設定図(S=1/1200)	50
第74図	基本層序模式図(S=1/40)	50
第75図	調査地周辺図(S=1/5000)	51
第76図	調査区設定図(S=1/800)	52
第77図	基本層序模式図(S=1/40)	52
第78図	調査地周辺図(S=1/5000)	53
第79図	調査区設定図(S=1/800)	54
第80図	基本層序模式図(S=1/40)	54
第81図	調査地周辺図(S=1/10000)	55
第82図	調査区設定図(S=1/800)	56
第83図	調査地平面図(S=1/80)	56
第84図	出土遺物実測図(S=1/4)	57
第85図	基本層序模式図(S=1/40)	57
第86図	調査地周辺図(S=1/5000)	58
第87図	出土遺物実測図(S=1/4)	59
第88図	調査区設定図(S=1/400)	59
第89図	調査地平面図(S=1/80)	60
第90図	調査地周辺図(S=1/10000)	61
第91図	調査区設定図(S=1/800)	62
第92図	基本層序模式図(S=1/40)	62
第93図	調査地周辺図(S=1/5000)	63

第94図 調査区設定図 (S = 1/400)	64
第95図 基本層序模式図 (S = 1/40)	64
第96図 調査地周辺図 (S = 1/5000)	65
第97図 調査区設定図 (S = 1/400)	66
第98図 土層断面図 (S = 1/60)	67
第99図 調査地周辺図 (S = 1/5000)	68
第100図 調査区設定図 (S = 1/400)	69
第101図 基本層序模式図 (S = 1/40)	69
第102図 出土遺物実測図 (S = 1/4)	70

表 目 次

表 1 出土遺物計測表	5
表 2 出土遺物計測表	48
表 3 文化財室が実施した昭和63年度埋蔵文化財調査の一覧表	63

図 版 目 次

図版 1 跡部遺跡 (62-307)
図版 2 跡部遺跡 (62-307)
図版 3 恩智遺跡 (62-529)
図版 4 恩智遺跡 (62-529)
図版 5 小阪合遺跡 (63-051)・恩智遺跡 (63-015)
図版 6 成法寺遺跡 (63-035)
図版 7 八尾南遺跡 (63-084)・老原遺跡 (63-150)
図版 8 楽音寺遺跡 (63-157)
図版 9 久宝寺遺跡 (63-245)
図版10 矢作遺跡 (63-253)

- 図版11 郡川遺跡(63-193)
- 図版12 郡川遺跡(63-193)
- 図版13 矢作遺跡(63-078)
- 図版14 成法寺遺跡(63-307)
- 図版15 東郷遺跡(63-209)
- 図版16 跡部遺跡(62-307) S W-01出土遺物
- 図版17 跡部遺跡(62-307) S W-02出土遺物
- 図版18 跡部遺跡(62-307) S K-01・成法寺遺跡(63-035)出土遺物
- 図版19 山賀遺跡(62-543)・楽音寺遺跡(63-157)出土遺物
- 図版20 久宝寺遺跡(63-245)出土遺物
- 図版21 久宝寺遺跡(63-245)出土遺物
- 図版22 久宝寺遺跡(63-245)・郡川遺跡(63-193)出土遺物
- 図版23 郡川遺跡(63-193)出土遺物
- 図版24 郡川遺跡(63-193)出土遺物
- 図版25 郡川遺跡(63-193)出土馬箒・矢作遺跡(63-253)出土遺物
- 図版26 東郷遺跡(63-209)出土遺物



第1図 八尾市内道路分布図 (1/50,000)

1. 跡部遺跡(62-307)の調査

調査地 跡部本町2丁目47-1

調査期間 昭和 63 年 3 月 17 日～3 月 31 日

1. 調查概要

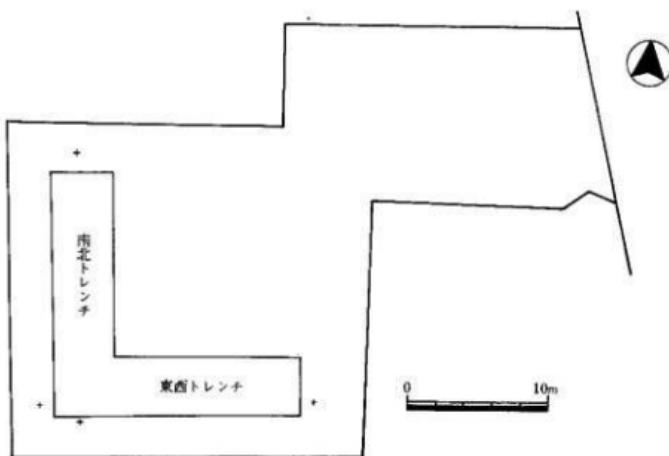
跡部遺跡は、弥生時代～中世に至る複合集落遺跡である。本調査は、昭和59年に(財)八尾市文化財調査研究会および当教育委員会が実施した調査地の南の隣接地に位置する為、事業者と協議の結果、関連遺構の有無を確認する目的で発掘調査を実施した。

調査では、地表下60cmまで掘削を実施した結果、若干の遺構を検出した。さらに下層1mまで掘削を実施したところ、古墳時代後期の須恵器、土師器が平安時代～近世の遺構面を構成する砂層内より多數出土した。検出した遺構は、平安時代の土坑3基と、土器窯より2ヶ所である。このうち、調査区の南東に位置する土坑は、径2.6m以上、深さ50cm以上に及ぶもので、



第2図 調査地周辺図 (1/10,000)

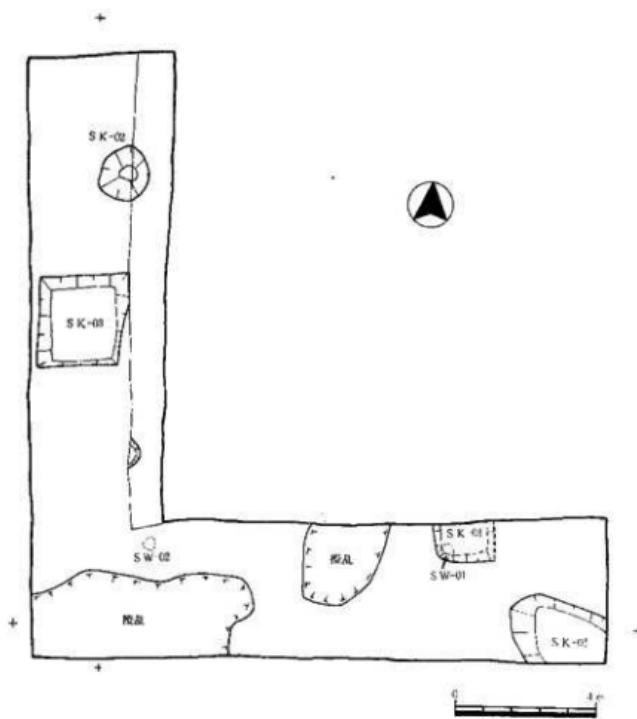
他は一辺1.7mの方形を呈するものと、径1.6深さ0.5mの円形を呈するものとがある。これらの遺構からは、平安時代末の瓦器片や土師器皿等若干が出土している。また、2ヶ所の土器窯は、径30cmの範囲に土師器皿が多数集積しており、性格は不明である。またこの他、一辺2.8mの近世の掘りこみも検出した。



第3図 調査区設定図 (1/400)

2.まとめ

本調査で検出した遺構は、主として平安時代のものと推定される。北に隣接する土地の発掘調査では、同時期の柱穴、井戸、土坑、土器窯め等の多数の遺構が検出されており、当該地においては、比較的稀薄な遺構の存在状況を呈していた。また、遺構面を呈する粗砂層は、2m以上の深さに及び、平安時代以前においては、古墳時代以降の河川敷であったことは確実である。このように、平安時代の集落立地を考える上でも、貴重な調査成果を得ることができた。(米田)

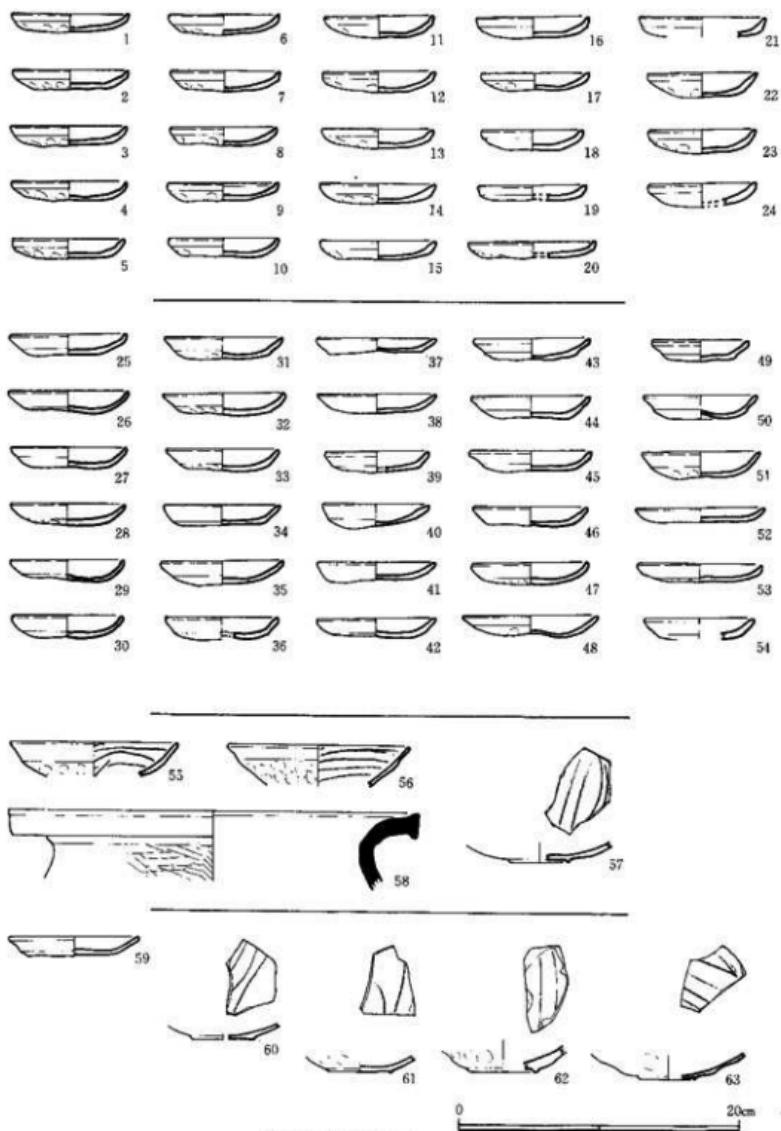


第4図 調査地平面図 (1/160)



第5図 土壙断面図 (1/160)

0 樹 茂	2 黄褐色難湿り砂質土
1 黄褐色小石混り砂質土	3 黄褐色難湿り細砂



第6圖 出土遺物實測圖 (1 / 4)

	口 径	器 高	色 調	備 考		口 径	器 高	色 調	備 考
1	8.2	1.3	明褐色	SW-01	33	8.0	1.5	明灰色	
2	8.2	1.4	明褐色		34	8.2	1.5	明灰色	
3	8.2	1.4	淡褐色		35	8.6	1.5	明灰色	
4	8.2	1.3	明褐色		36	8.0	1.6	明灰色	
5	8.0	1.4	淡褐色		37	8.4	1.0	明灰色	
6	7.8	1.5	明褐色		38	8.4	1.4	明灰色	
7	7.8	1.5	淡褐色		39	8.4	1.5	淡赤褐色	
8	7.6	1.3	淡褐色		40	7.6	1.7	淡赤褐色	
9	8.0	1.3	明褐色		41	8.4	1.4	淡赤褐色	
10	7.8	1.3	明褐色		42	8.4	1.3	淡赤褐色	
11	7.8	1.5	明褐色		43	F.8.2	1.5	淡赤褐色	
12	7.8	1.5	明褐色		44	F.8.4	1.5	淡赤褐色	
13	8.0	1.3	明褐色		45	F.8.6	1.4	淡褐色	
14	8.2	1.4	明褐色		46	F.8.0	1.3	明灰色	
15	8.2	1.3	明褐色		47	8.2	1.5	明灰色	
16	F.8.0	1.4	明褐色		48	9.6	1.4	明灰色	
17	F.7.6	1.1	明褐色		49	F.6.8	1.4	淡赤褐色	
18	F.7.2	1.4	明褐色		50	F.8.0	1.7	明褐色	
19	F.7.6		明褐色		51	8.4	1.8	明灰色	
20	F.9.0		明褐色		52	9.2	1.0	淡褐色	
21	F.9.0		明褐色		53	8.8	1.3	明灰色	
22	7.8	1.7	淡褐色		54	F.7.8		明灰色	
23	7.6	1.6	明褐色		55	F.12.0		淡灰色	SK-01
24	7.6		明褐色		56	F.13.0		淡灰色	
25	8.2	1.5	明褐色	SW-02	57			淡黑色	
26	8.4	1.4	明褐色		58	F.28.8		淡青灰色	
27	8.2	1.5	明褐色		59	9.2	1.5	黑灰色	SK-04
28	8.0	1.5	明褐色		60			淡灰色	
29	8.1	1.4	明褐色		61			淡灰色	
30	7.8	1.5	明褐色		62			淡灰色	
31	8.4	1.5	明灰色		63			淡灰色	
32	8.6	1.5	明灰色						

表1 出土遺物計測表

1~24 SW-01
 25~54 SW-02
 55~58 SK-01
 59~63 SK-04

2. 恩智遺跡(62-529)の調査

調査地 恩智中町3丁目224-1,3

調査期間 昭和63年5月27日

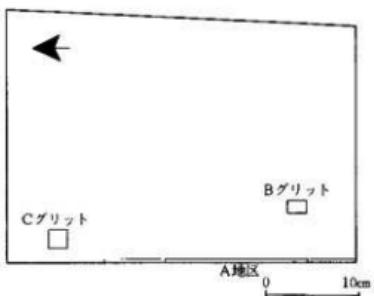
1. 調査概要

本調査は、共同住宅建築に伴って実施した遺構確認調査である。調査地周辺は、恩智遺跡のほぼ中心にあたることから何等かの遺構と多量の遺物の出土が予想された。

調査地西側は、市の河川工事による掘削で断面が露出していたためその部分の断面観察及び遺物の採集を行い、また調査地の北側と南側にそれぞれ $2 \times 1.5\text{m}$ のグリットを設定し、人力で地表下 2m まで掘削を行なった。



第7図 調査地周辺図 (1/5,000)



第8図 調査区設定図 (1/600)

A地区 調査地の基本層序は、第10図に示した通りで、厚さ0.4mの盛土以下1層淡茶灰色粘質土、3層青灰色粘土、4層暗灰黑色粘質砂、5層黒灰色粘質砂の堆積が認められた。遺物は、3～5層より弥生時代中期～古墳時代の上器片が多数出土した。

Bグリット 地表下約1.5mで包含層である4層をみとめたが層厚は0.14mと薄く弥生中期の土器片こそ出土したが、量は少ない。

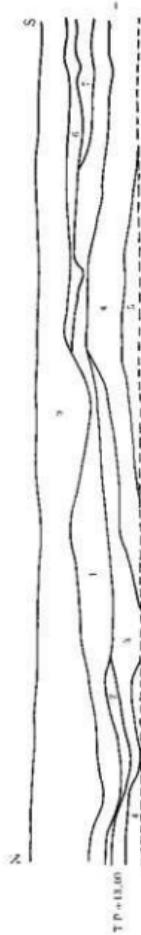
Cグリット 地表下1.1mで4層の堆積を認めた。層厚は0.14mと薄いが遺物量はBグリットをはるかに凌ぐ。また、4層下には5層の堆積が認められこの層より、弥生中期の土器片、初期須恵器、黒色土器A類などの多量の土器とともにサヌカイト製の石礫、石剣、石核などの石器類も出土した。

また、5層下の8層淡褐色細砂層上面からは、淡褐色粗砂を埋土とする形状不明遺

構2基を検出した。

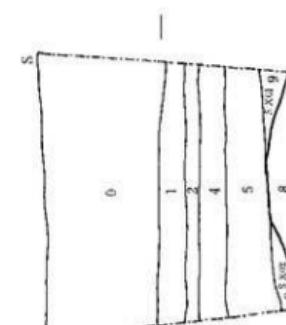
3.まとめ

今回の調査では多量の土器こそ出土したが、それは恩智遺跡の中心部付近である事から当然予想されていた事であり特記すべき事ではない。今回は建物の基礎が包含層に達しなかつたためこれ以上の調査は行なわなかった。(近江)

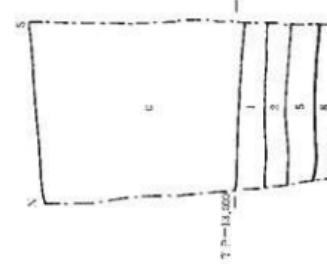


第10図 A地区横断面図 (1/80)

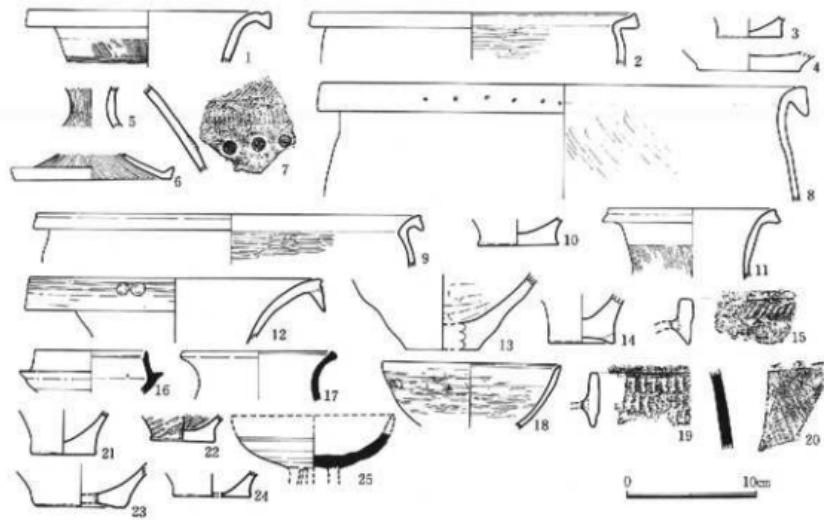
0	當 土
1	植 土
2	暗灰褐色粘土
3	暗灰色粘土
4	黑色粘土
5	深灰色粘土 (粘性地)
6	茶灰色小礫混じ土
7	深灰色砂土
8	深褐色粘土
9	灰褐色粗沙



第12図 Cグリット断面図 (1/40)



第11図 Bグリット断面図 (1/40)



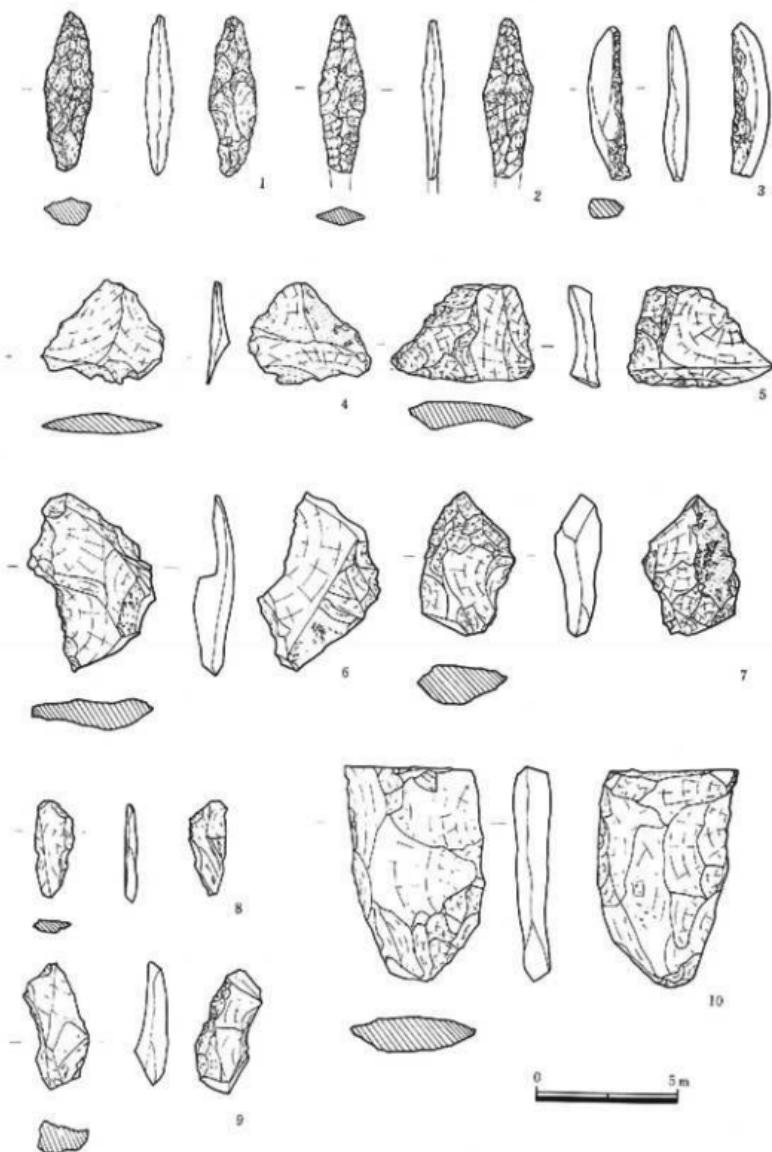
第13図 出土造物実測図 (1/4)

A地区(1~8)

Bグリット(9~10)

Cグリット7層(11~20)

S X-01(21~25)



第14図 Cグリット第7層出土石器 (1/2)

3. 小阪合遺跡(63-051)の調査

調査地 青山町1丁目54
調査期間 昭和63年5月11日

1. 調査概要

本調査は、事務所建設に伴って実施した遺構確認調査である。調査地に東側は区画整理事業に伴う大規模な調査により弥生から近世の集落が存在することが認められており、本調査にもそれらの遺構が広がるものと思われた。

本調査は、調査地北側に1×2m、南側に2×3.5mのグリットをそれぞれ設定し、地表下0.4mまでを機械掘削し以下0.6mを人力で精査した。

調査地の基本層序は、第19図に示した通りで、厚さ0.4mの盛土旧耕土以下3層淡褐色粘質土、4層暗灰褐色粘質土、5層褐灰色粘質土、6層明褐色粘質土の堆積が認められ、旧耕土下の全ての層から遺物が出土した。

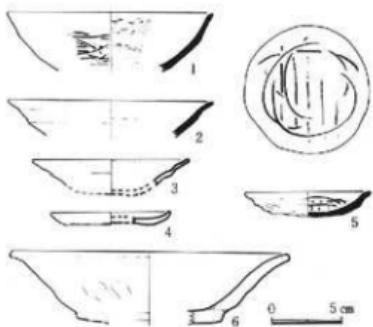
北グリット 厚さ0.5mの盛土を除去すると3層の堆積を認め若干の中近世の土器が出土し



第15図 調査地周辺図 (1/10,000)

たが湧水層にあたったため以下の調査は断念した。

南グリット 厚さ0.3-0.5mの盛土以下全ての層より細片ではあるが多量の遺物が出土した。5層内からは、瓦器小皿の完形品が出土したが遺構にともなっていたものかは不明である。また、グリット北西で6層をベースとする深さ0.15m程度の落込み状の遺構を検出したが遺物量はわずかである。



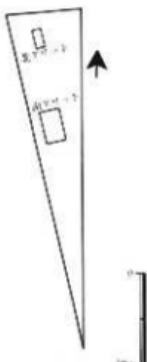
第16図 南グリット出土遺物実測図 (1/4)

2. 出土遺物

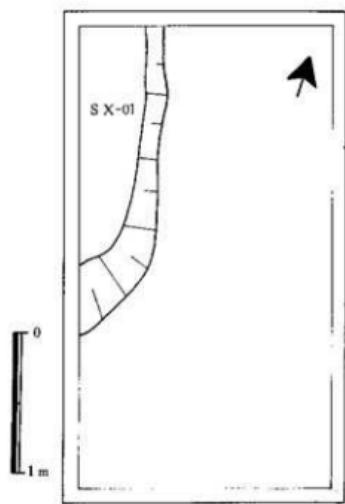
1. 2は瓦器碗である。1は外面にミガキをおこない内面のミガキも丁寧であることからその時期を12世紀半ば以前に比定できよう。3. 4は土師皿でいずれも口縁部にヨコナデをおこなう。5は瓦器小皿で口径9.2cm、器高1.8cm、内面に平行線状の暗文を施した後、側面に半円状の暗文を施す。6は高環坏部で作りは厚くしっかりしている。口径20cmをはかる。

3.まとめ

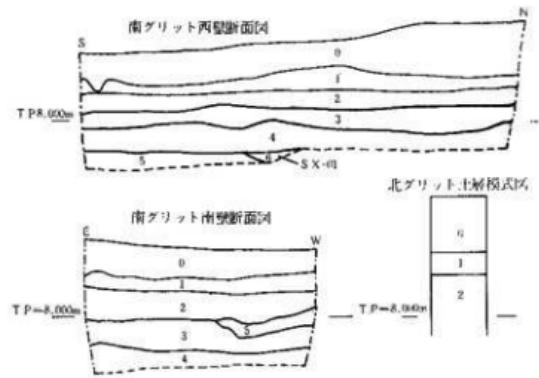
今回の調査では小面積に限られていたため遺構の形状などを明らかにすることはできなかったが、調査地の包含層が比較的浅くまた、包含層中に多くの古墳時代の遺物が含まれていたことから、当該地周辺は古墳時代から比較的安定した土地であったとおもわれる。(近江)



第17図 調査区設定図 (1/600)



第18図 南グリッド平面図 (1/40)



第19図 土壌断面図 (1/40)

0	盛土	4	湖底色粘質土
1	旧耕土	5	明褐色粘質土
2	淡褐色粘質土	6	淡灰色粘質土
3	暗灰褐色粘質土		

4. 恩智遺跡(63-015)の調査

調査地 恩智中町2丁目125

調査期間 昭和63年5月27日

1. 調査概要

本調査は、住宅建築に伴って実施した遺構確認調査である。調査地は、恩智遺跡の中心地である天王の社から200mの地点に位置し恩智遺跡の北の広がりを考える上で興味深い地域である。

調査は、調査地北側に2×2mのグリッドを設定し、地表下1.5mまで掘削を行ない、さらに



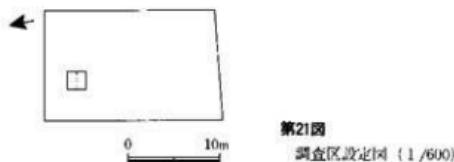
第20図 調査地周辺図 (1/5,000)

グリット南半分を0.4m掘り下げた。

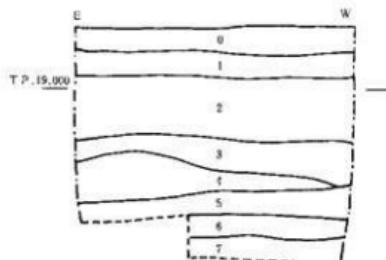
調査地の基本層序は、第22図に示した通りで、厚さ0.4mの盛土及び旧耕土以下2層暗灰褐色シルト、3層灰褐色シルト、4層暗灰色粗砂、5層灰褐色シルト、6層暗灰褐色粘質土、7層暗灰褐色粘質土の堆積が認められた。遺物は、2~4層より若干中世の土器が出土し、7層より弥生時代のものと思われる土器片が1点出土した。

2.まとめ

今回の調査では、天王の杜周辺に見られるような良好な包含層は認められなかった。しかし7層内より弥生土器と思われる小片が出土したことから恩智遺跡の弥生時代の集落が本調査地まで広がる可能性をわずかに残した。(近江)



第21図
調査区設定図 (1/600)



第22図 南號土層断面図 (1/40)

0 盛 土	4 暗灰色粗砂
1 旧耕土	5 暗灰褐色シルトⅡ
2 暗灰褐色シルト	6 暗灰褐色粘質土
3 灰褐色シルトⅠ	7 暗灰褐色粘質土Ⅱ

5. 成法寺遺跡(63-035)の調査

調査地 高美町1丁目4-1

調査期間 昭和63年5月25日

1. 調査概要

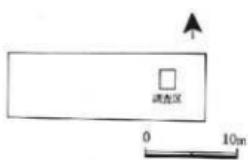
本調査は、共同住宅建設に伴って実施した遺構確認調査である。調査地周辺は、府道拡幅に伴い大阪府教育委員会が実施した調査により弥生から近世の遺跡の存在が明らかにされており、本調査地にも遺物の包蔵が予想された。

調査は、建設予定建物の浄化層部分に2.4×1.7mのグリットを設定し機械により地表下1mを掘削し以下、人力にて掘り進めた。

調査地の基本層序は、第27図に示した通りで、盛土以下2層青灰色シルト粘土、3層暗茶褐色細砂混じり粘質土、4層淡灰色シルト粘土の堆積が認められ、これらの層からは古墳時代から中世の遺物の出土がみられ、以下7層暗灰色粘質土、8層黄褐色粘土の堆積が認められ、6、7層は古墳時代の遺構面となると同時に弥生時代後期の遺物包含層となる。



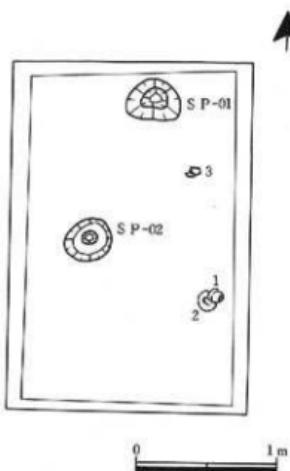
第23図 調査地周辺図 (1/10,000)



第24図 調査区設定図 (1/600)

2. 検出遺構

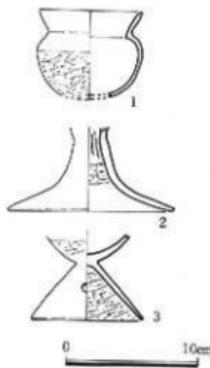
6層7層をベースとするPit 2基を検出した。SP-01は長径0.4m、短径0.3m、深さ0.15mの指円形のPitで、SP-02は直径0.3m、深さ0.3mの円形のPitで遺物はいずれも出土しなかった。またこの層直上にて高環脚部と小形器台が出土した。これらは何等かの遺構に伴っていたものとおもわれるが、その形状は明らかでない。



第25図 調査区平面図 (1/40)

3. 検出遺物

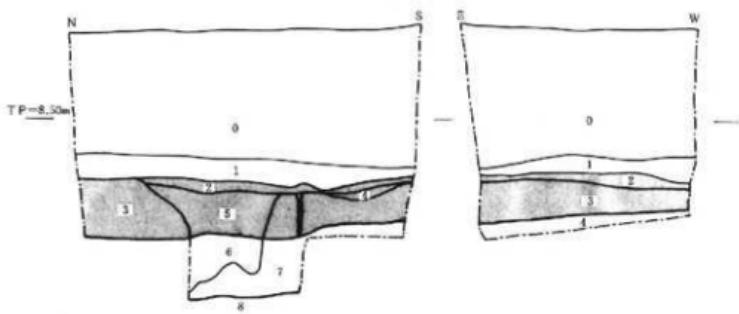
1は、グリット南東で出土した小形丸底壺であり、口径7.8cm、器高6.6cmを計り、外面にヘラケズリを行なう。2は1と接して出土した高環脚部で、脚部内面にヘラケズリをおこなうなど布留式でも新しい様相を呈す。3は1、2より約10cm高いレベルで出土した小形器台である。脚部内面及び外面にヘラケズリを行ない、底径は8.6cmを計る。



第26図 出土遺物 (1/4)

4.まとめ

本調査地では小面積に係わらず古墳時代の遺構を検出することができた。当該地周辺の集落は、比較的安定した自然堤防上に立地しているものと思われることから今回検出した遺構も弥生時代以前に形成された安定した自然堤防上に立地する遺跡の一部であるものと思われる。(近江)



第27図 土層断面図 (1 / 40)

- 0 盛土
- 1 青灰色シルト混粘土
- 2 オリーブ灰色粘質土
- 3 暗茶褐色細粒混粘質土
- 4 淡灰色シルト混粘質土
- 5 暗青灰色粘土
- 6 青灰色シルト
- 7 暗茶灰色粘質土
- 8 黄灰色粘土

6. 山賀遺跡(62-543)の調査

調査地 新家町5丁目14-1

調査期間 昭和63年6月7日

1. 調査概要

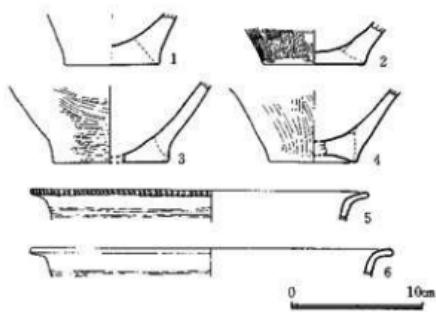
新家町5丁目14-1地内において、藤阪株式会社より倉庫建設を計画している旨の届出に基づき立会調査を実施したところ、地表より-90cmで弥生時代前期の包含層を確認したため、急提、建物部分内に3ヶ所のグリットを設定し（第29図）、発掘調査をおこなった。調査は、包含層直上まで重機により掘削し、以下は人力で行なった。

調査地の基本層序は、第31図に示したとおりである。遺物は、5層より最も多く出土した。包含層直下の青灰色シルトは、弥生前期の生活面であったと考えられる。また、この層の検出レベルは、AグリットとCグリットとでは、65mで70cm Cグリットが低くなっている。

出土遺物は、多量であったが、いずれも細片であり図化できるものは少ない。時期は、弥生前期後半に相当すると思われる。



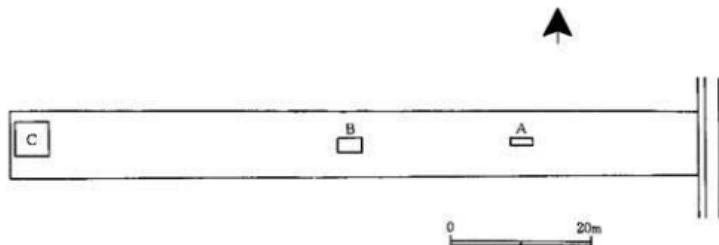
第28図 調査地周辺図 (1/5,000)



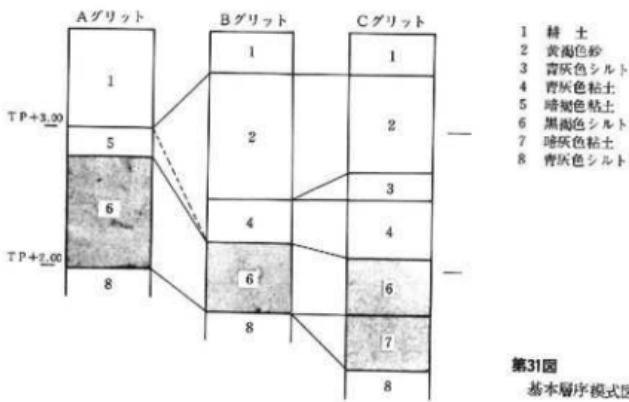
第29図
Cグリッド出土遺物 (1/4)

2.まとめ

本調査地では、弥生前期の包含層を確認した。また、本調査地の西側の近畿自動車道に伴う調査では、弥生時代前期の環濠と思われる溝8条が検出されている。報告者は、住居区域を調査区南西にもとめているが、溝の時期と、本調査地の包含層の時期が、ほぼ同じであることや、本調査地が微高地であったことなどからこの地が、弥生時代前期における山賀遺跡の住居区域であった可能性が考えられる。(近江)



第30図 調査区設定図 (1/800)



第31図
基本層序模式図 (1/40)

7. 八尾南遺跡(63-084)の調査

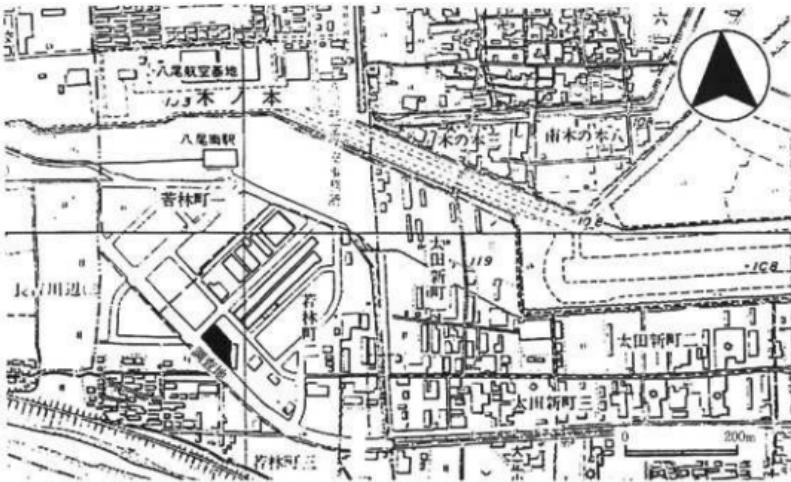
調査地 八尾市若林町2丁目147

調査期間 昭和63年6月9日

1. 調査概要

八尾南遺跡は、羽曳野丘陵周辺に位置する旧石器時代より平安時代に至るまで長期に渡って営まれた集落遺跡である。株式会社小倉屋山本食品の工場倉庫建設予定地に、2m四方のグリットを3箇所設定して、試験掘りを実施した。(第33図)

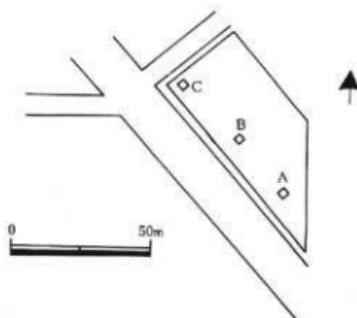
調査は、GL-1.2mまで、機械により掘削し、以下は機械と手掘りを併用して慎重に掘削を実施した。調査地の基本層序は盛土、旧耕土以下GL-3mまで第1層茶灰色砂質土、第2層灰褐色粘質土、第3層灰色粗砂、第4層茶灰色粘土、第5層青灰色粘土、第6層黒色粘土、第7層灰色粘土で、敷地中史の第2グリットでは第2層と第3層の間に、弥生の土器を含む粘土層が存在する。また第1層からは平安時代に比定できる土器片が出土している。また、付近の調査成果から第4層上面は弥生時代の水田であることも予測できる。(第34図)



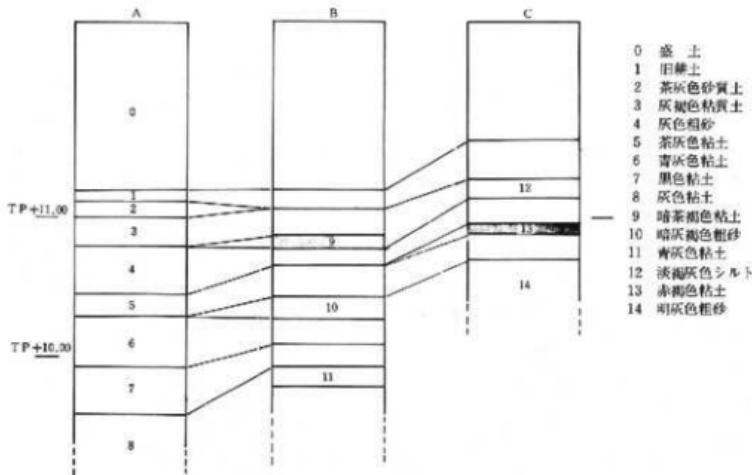
第32図 調査地域図(1/10,000)

2.まとめ

本調査では、八尾南遺跡の他地点の調査地の基本層序と同様の土層の堆積を確認した。遺物の包含こそ少なかったが第2グリットでは、遺構を思わせる土層も存在しており、遺構の有無については、結論するまでには至らなかった。(米田)



第33図 調査区設定図 (1 /1,000)



第34図 基本層序模式図 (1 /40)

8. 八尾南遺跡(63-075)の調査

調査地 八尾市西木の本1丁目48, 49

調査期間 昭和 63 年 6 月 23 日

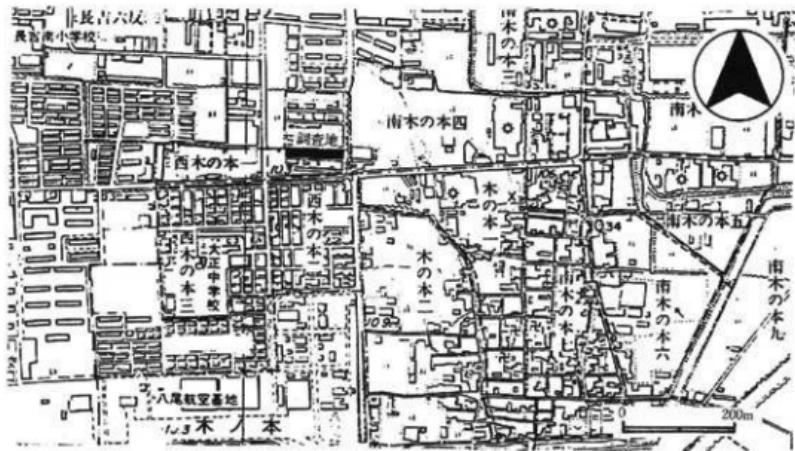
1. 調查概要

八尾南遺跡は八尾市西木の本、若林町に所在する旧石器時代から鎌倉時代に至る複合遺跡である。八尾市西木の本1丁目48、49番地内において、下村清之佑氏より共同住宅建築を計画している旨の届出に基づき調査を実施した。

発掘調査は、基礎工事によって遺構の破壊が予測されている部分を対象に上幅4m×4mのグリットを2箇所設定し、機械及び人力により掘削を行なった。

西グリット 溝水が著しい為、グリット内での作業は行なえなかつたが、G L 2.5m～3.0mにかけて存在する黒灰色粘土層内より多量の弥生時代後期の土器片が出土した。

東グリット 重機により、西グリットにおいて確認した黒灰色粘土層の上面まで掘削して、以下人力と重機を併用して漁重に掘削を行なった。その結果西グリット同様、黒灰色粘土層内



第35回 調査地周辺図 (1/10,000)

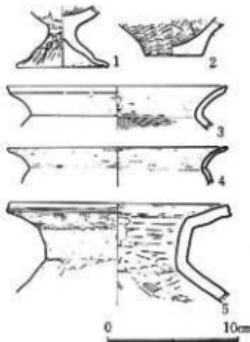
より弥生後期の広口壺片をはじめとする多量の土器片が出土した。

2.まとめ

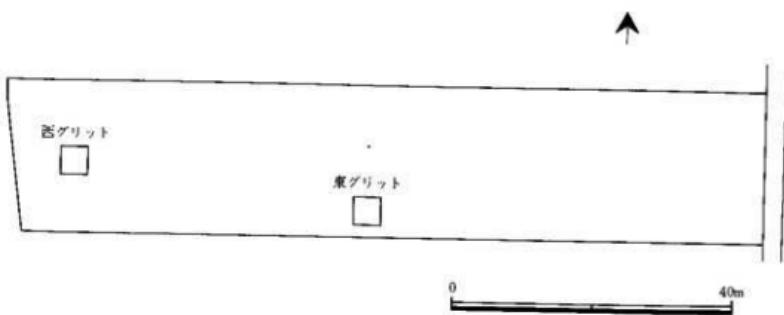
本調査では、弥生時代前期の土器片を多量に包含する土層を確認した。また、本調査地の近接地においては、弥生時代～古墳時代の遺構が検出されており、基本層序も本調査地とほぼ同じであることから、本調査地において遺構が存在することは確実である。(近江)

追記

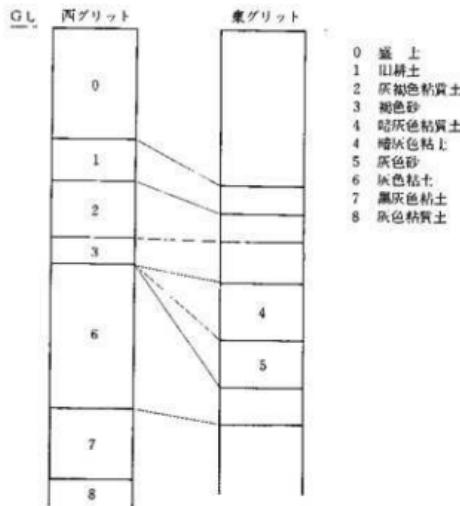
昭和63年7月19日～26日にかけて実施した発掘調査では、弥生後期から庄内の遺物は多量に出土したが、遺構は調査上の不備により遺構面を掘削してしまい、断面でその存在を確認した。また、確認グリットによる下層確認調査を地表下5mまで実施した結果、包含層以下は1m以上に渡ってシルトおよび微砂層の堆積が認められ、それより下には植物遺体を多量に含む粘土層、さらに時期は明らかではないが、胎土に1～2mの砂粒を含む土器片1片を出土した黒色粘土層の堆積を認めた。この層については、清水和明、高橋工両氏（大阪市文化財協会）よりNG9C層に対応するという御教示を得た。記して感謝したい。なお、調査の詳細については、(財)八尾市文化財調査研究会より報告予定である。



第36図 東グリット出土遺物実測図（1/4）



第37図 調査区設定図 (1/800)



第38図 基本層序模式図 (1/40)

9. 山賀遺跡(63-044)の調査

調査地 山賀町5丁目52-1

調査期間 昭和63年6月28日

1. 調査概要

山賀町5丁目52-1地内において、株式会社日工より工場建設を計画している旨の届出に基づき発掘調査を実施した。本調査は、建物部分内に3×3mのグリットを設定し(第5図)重機及び人力により地表下3mまで掘削を行なった。

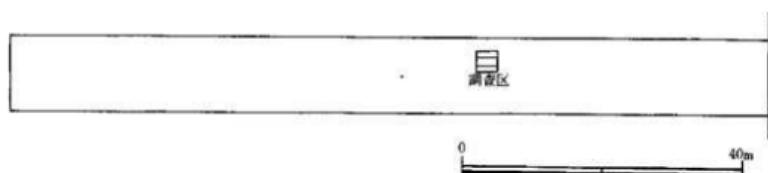
調査地の基本層序は、第41図に示した通りであるが、遺物は、いずれの層からも出土しなかった。

2.まとめ

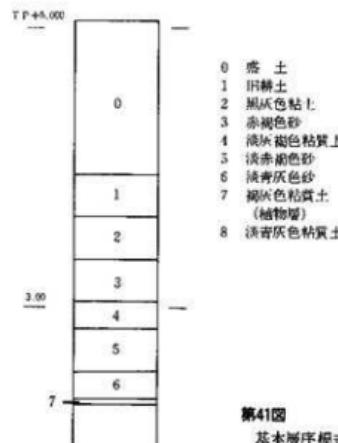
本調査地では、遺構、遺物は検出されなかった。本調査地は、前載した新家町5丁目14-1地点の東南200mに位置するが、新家町で見られたような包含層は、確認できなかったが、本調査の結果のみでは、遺跡の範囲を限定することはさけておきたい。(近江)



第39図 調査地周辺図 (1/5,000)



第40図 調査区設定図 (1/800)



第41図
基本層序模式図 (1/40)

10. 楽音寺遺跡(63-157)の調査

調査地 楽音寺 5 丁目69

調査期間 昭和 63 年 6 月 30 日 ~ 7 月 2 日

1. 調査概要

本調査は、住宅建設に伴って実施した遺構確認調査である。調査地周辺は、大阪経済法科大学の校舎建設に伴う調査で尾根上に弥生時代の集落跡や中世の館跡などの存在が認められ、また同じく尾根上には古墳時代前期から中期を中心とする高安古墳群が存在しており、古墳時代の集落の存在も想定された。

本調査は、調査地中央に $1.3 \times 5\text{m}$ のトレーナーを設定し、人力で掘削を行なったところトレーナー東側で Pit を検出したため拡張を行ない最終的には $1.8 \times 5\text{m}$ となった。厚さ 0.2m の盛土を除去すると庄内の遺物を包含する暗茶褐色粘質砂層の堆積を認めた。

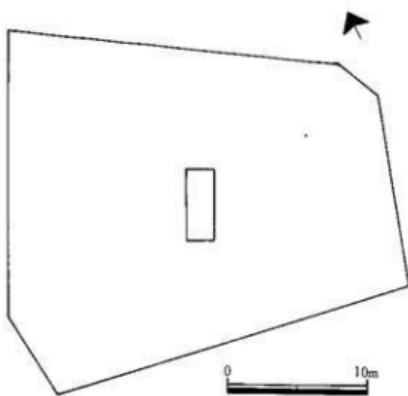
2. 検出遺構

地表下約 0.4m で認めた灰褐色粘質土にて庄内のものとおもわれる土塙、Pitを検出した。

S K - 0 1 長径 0.66 、短径 0.56m 、深さ 0.3m の楕円形の土塙で遺物はほとんど含まない。



第42図 調査地周辺図 (1/5,000)



第43図 調査区設定図 (1/400)

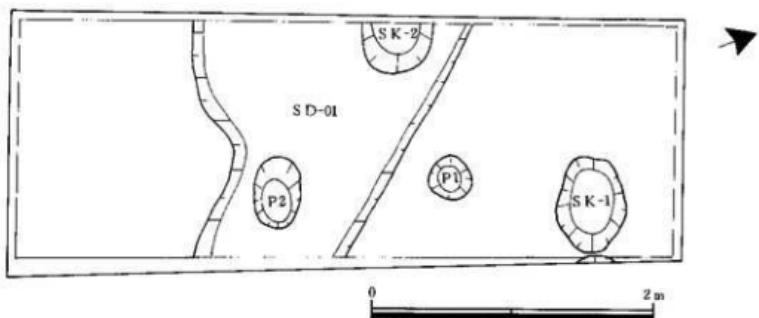
S K - 0 2 トレンチ西側で検出した土塙で落込み状の溝 SD - 01に切込まれる。短径0.5m、深さ0.3mの楕円形で、SK - 01とほぼ同規模のものとおもわれ、遺物はほとんど含まない。

S D - 0 1 トレンチ中央で検出した幅1.8m、深さ0.15m程度の落込み状の溝であり、埋土は2層である。遺物は庄内の土器片を数点出土上したのみである。

S P - 0 1 長径0.5m、短径0.3m、深さ0.3mの楕円形のPitである。

形のPitである。

S P - 0 2 直径0.3m、深さ0.15mのはぼ円形のPitである。



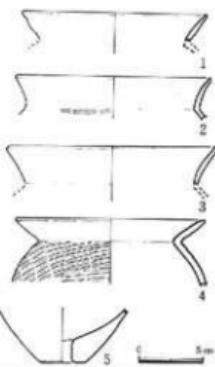
第44図 調査地平面図 (1/40)

3. 出土遺物

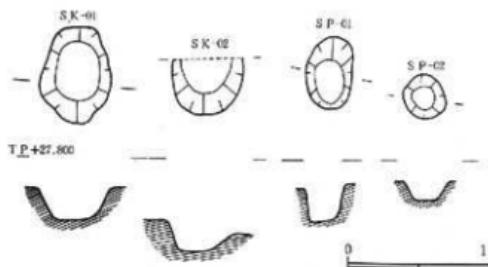
遺物は細片が多く、図化できるものは少なかった。庄内壺(1, 3)はいずれも直線的に外傾する口縁部につまみ上げの端部を有するもので、胎土は生駒西麓のものである。また、図化していないが庄内壺の体部内面はヘラケズリが行われている。V様式系壺4は推定口径14.4cmで、体部最大径が中位にくるものと思われ、外面にタタキを施す。

4.まとめ

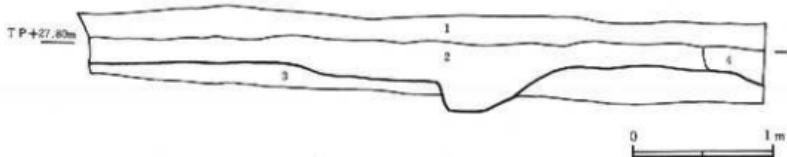
今回の調査では、古墳時代前期の集落跡を確認した事は高安古墳群の造営を考える上でも興味深い。また、当該地周辺では、中世の開拓などにより古墳時代以前の集落が削平されている地域が多いが、今後の調査により大規模な集落跡が発見される可能性が強い。(近江)



第45図 包含層出土遺物 (1/4)



第46図
土坑、Pit 実湖団 (1/40)



第47図 南北方向西壁土層断面図 (1/40)

- | | |
|-----------|-----------|
| 1 細土 | 3 淡褐色粘質土 |
| 2 暗茶褐色粘質土 | 4 淡灰褐色粘質土 |

11. 恩智遺跡(63-201)の調査

調査地 恩智北町1丁目59, 60

調査期間 昭和63年7月22日

1. 調査概要

恩智遺跡は、縄文時代、弥生時代、古墳時代に至る中河内の代表的な集落遺跡である。

当該地は、当遺跡の北側に位置しており、恩智川改修時と、隣接地のマンション建設時に、発掘調査が実施されており、弥生時代～古墳時代の遺構、遺物が多数検出されている。昭和63年7月22日に遺跡の存在状況を確認するため、2m×2mの調査区を東西2箇所に設定し、機械による掘削と断面の観察を実施した。

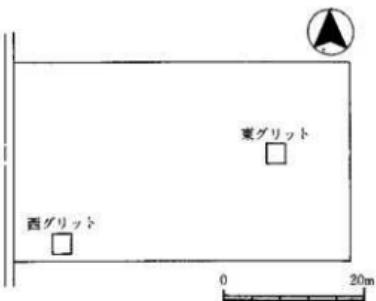
東側調査区 表土以下1.1mまでは、灰褐色の粘砂質土が堆積し、約10cmの厚みの砂層に達



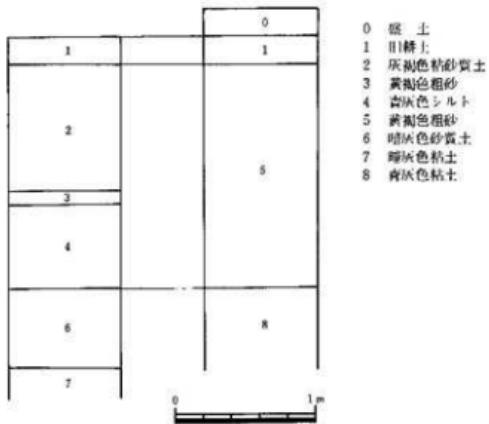
第48図 調査地周辺図 (1/10,000)

する。以下 G L - 1.8m迄の青灰色シルトまでは無遺物層で、それ以下の暗灰色砂質粘土層に弥生時代の土器が多数混在していた。

西側調査区 表土以下2mまでは褐色の砂が厚く堆積しており、湧水も多い。その下には青灰色粘土があり、この中より古墳時代の土師器片が若干出土している。



第49図 調査区設定図 (1 /800)



第50図 基本層序模式図 (1 /40)

2.まとめ

土層の状況より、当該地に弥生時代～古墳時代の遺構が存在していることは、確実であろう。特に東側の上器包含状況は、良好である。このことから基礎によって破壊される部分を対象として、発掘調査の実施が必要であると判断される。(米田)

12. 老原遺跡(63-150)の調査

調査地 東老原2丁目13-1, 14-1, 18

調査期間 昭和63年8月2日

1. 調査概要

本調査は、共同住宅建築に伴って実施した遺構確認調査である。調査地周辺は、数次に渡る調査により、古墳時代から中世の集落の存在が認められており今回の調査は、集落の東への広がりが、確認されることが期待された。

調査は、3×3mのグリットを3箇所設定し、0.6mまで機械掘削を行なった後、以下を機械と人力を併用して地表下2m程度まで慎重に掘り進めた。

調査地の基本層序は、第54図に示した通りで、厚さ0.2mの耕土以下2層黄褐色粘質土、3層黄褐色粘質シルト、4層青灰色粘土、5層淡青灰色細砂以下砂と粘土の互層となる。

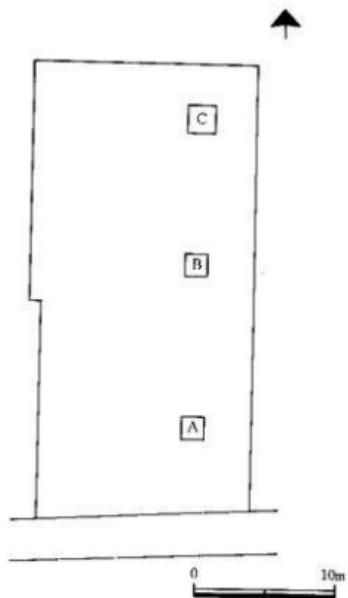
遺物は、4層より若干中世の土器が出土したのみであるが、Cグリットで確認した旧河道と思われる9層より須恵器等の出土をみた。

2.まとめ

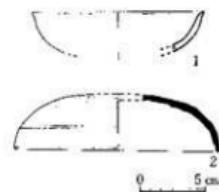


第51図 調査地周辺図 (1/10,000)

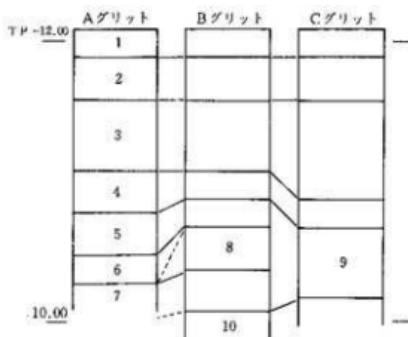
今回の調査では、集落跡の存在を確認するに至らなかった。従って本調査地西側で認めた集落は当該地まで広がらないものと思われる。(近江)



第52図 調査区設定図 (1/800)



第53図 C グリット河道出土遺物 (1/4)



第54図 基本層序模式図 (1/40)

13. 久宝寺遺跡（63-245）の調査

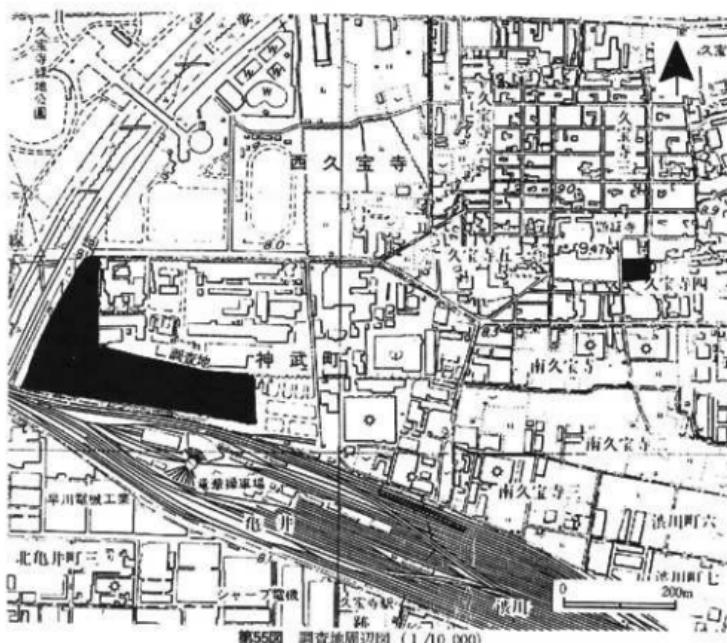
調査地 神武町168, 183, 184-1

調査期間 昭和63年8月25日

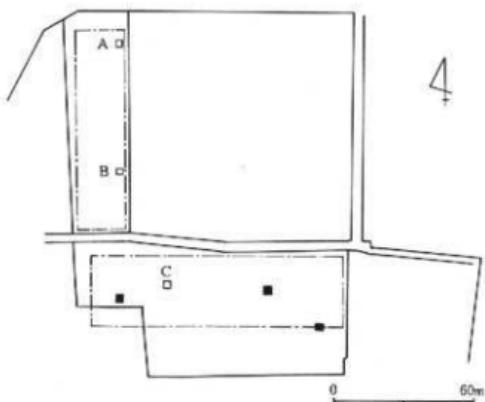
1. 調査概要

本調査は、倉庫建設に伴って実施した遺構確認調査である。調査地周辺は、中央環状道路に伴って(財)大阪文化財センターにより実施された調査で、弥生時代から中世の遺構や遺物がかなり高い密度で検出された。

本調査は、調査地に3×3mのグリッドを3箇所設定し機械と人力を併用して地表下2.5mまで慎重に掘り進めた。



第55図 調査地周辺図 (1/10,000)



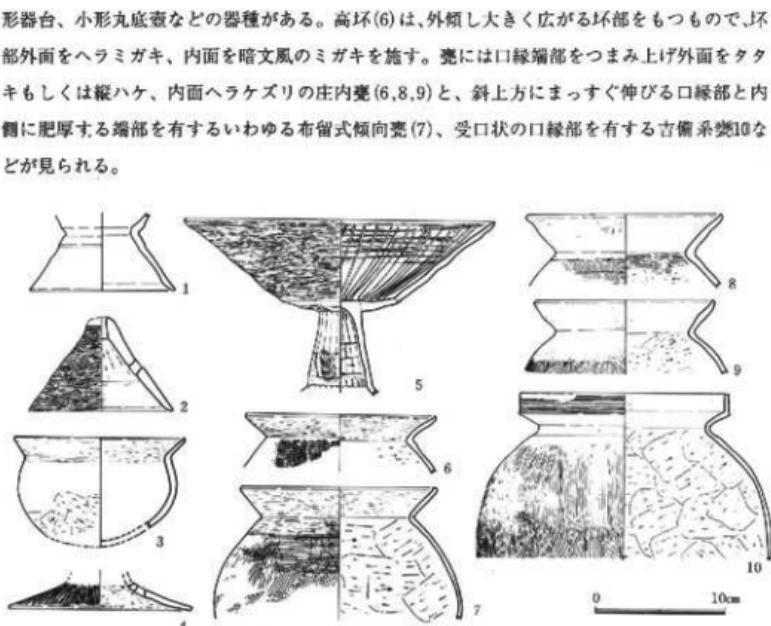
第56図 調査区設定図 (1/2,400)

□本調査 ■57年度調査地

調査地の基本層序は第58図に示した通りで厚さ1mの盛土を除去すると1層緑灰色粘土、2層淡緑灰色粘土、4層青灰色粘土、5層暗灰色粘土、6層灰色砂、7層淡褐色粘土の堆積が認められる5層は庄内から布留の遺物を多量に包含する。

出土遺物

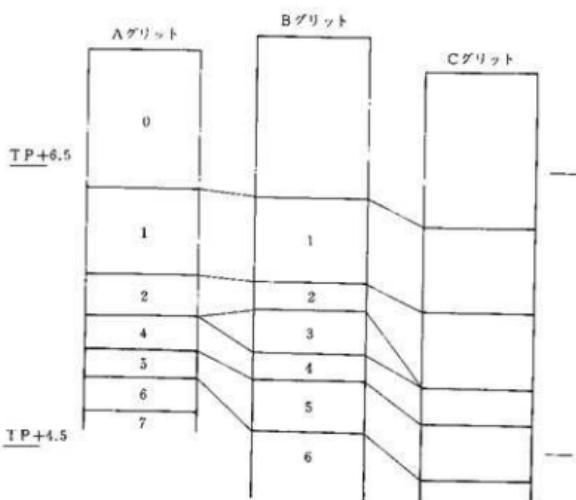
遺物は多量にして、いずれも古墳時代前期に属するもので、5層内に非常に密に包含されていた。壺、甕、高坏、小形器台、小形丸底壺などの器種がある。高坏(6)は、外傾し大きく広がる坏部をもつもので、坏部外面をヘラミガキ、内面を暗文風のミガキを施す。甕には口縁端部をつまみ上げ外面をタタキもしくは継ハケ、内面ヘラケズリの庄内甕(6,8,9)と、斜上方にまっすぐ伸びる口縁部と内側に肥厚する端部を有するいわゆる布留式傾向甕(7)、受口状の口縁部を有する吉備系甕(10)などが見られる。



第57図 Bグリット包含層出土遺物 (1/4)

2. まとめ

今回の調査により当該地には、古墳時代前期の集落が存在することが明らかになった。また、調査地の東側は昭和57年度に部分的に調査が行われており、その結果包含層の広がりが認められなかったことから、面的な調査を行なう事により神武町付近を中心とする久宝寺遺跡の古墳時代の集落の東端が確認されるものと思われる。(近江)



第58図 基本層序模式図 (1/40)

- 0 燐土
- 1 線灰色粘土
- 2 淡緑灰色粘土
- 3 晴灰色粘土
- 4 黄所色粘土
- 5 暗灰色粘土(包含層)
- 6 灰色細砂
- 7 淡褐色粘土

14. 矢作遺跡（63-253）の調査

調査地 高美町2、3番1、4

調査期間 昭和63年8月30日

1. 調査概要

矢作遺跡は、河内平野の沖積地に営まれた弥生時代～中世に至る複合遺跡である。本調査は矢作神社の北東150m地点に位置し、また、南に近接する箇所では（財）八尾市文化財調査研究会による発掘調査が実施されており弥生～中世の遺構を多数検出している。

高美町3丁目地内において株式会社慶富商事によりレストラン建設を計画している旨の届出に基づき調査を実施した。調査は、施工予定地において、2×2m前後のグリットを4箇所設定し、地表1.2mまで機械掘削したのち、以下を機械と人力を併用しG.L.-2mまで調査を行なった。

調査区北側は、約1.1m程度の盛土がなされており、旧耕土下10～70cmに存在する2～5層に遺物が包含されており、2～3層は、主に古墳時代～中世の遺物を、4層からは、須恵器を

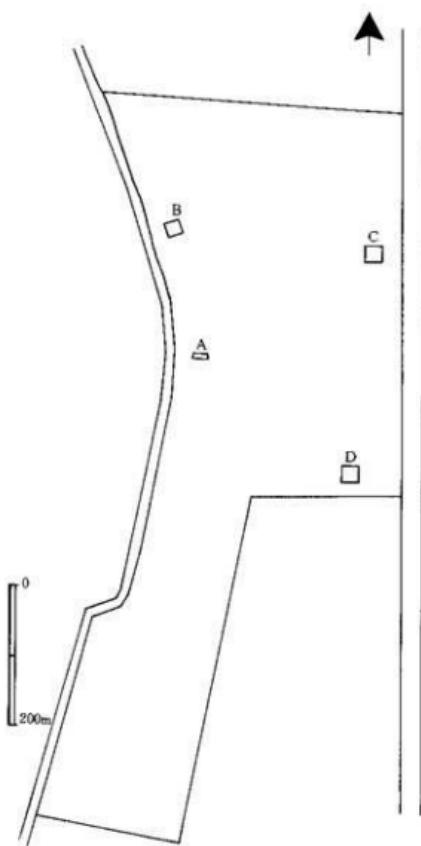


第59図 調査地周辺図 (1/10,000)

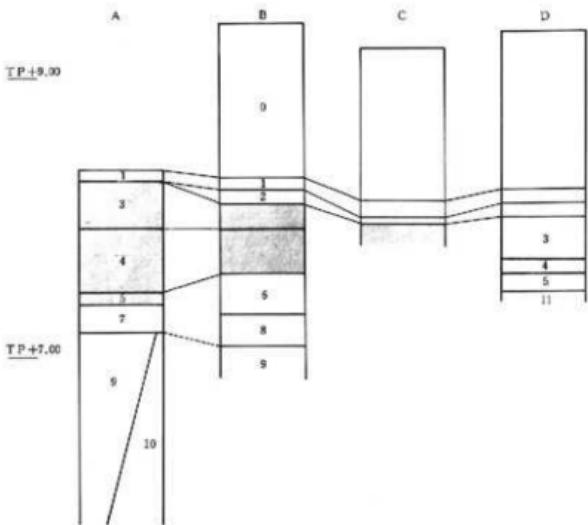
含む古墳時代の遺物を出土した。また、3層の黄茶褐色粘質土層は、先述の62年度調査での遺構検出面と対応するものと思われ、さらに、10層は古墳時代の遺構面となる可能性が強い。

2.まとめ

今回の調査では、残念ながら遺構は検出出来なかったが、基本層序が62年度調査地とほぼ対応することなどから、本調査にも遺構が広がる可能性があるものと考えられる。(近江)



第50図 調査区設定図 (1/800)



第61図 基本層序模式図 (1 /40)

- | | |
|----|---------|
| 0 | 盛土 |
| 1 | 耕土 |
| 2 | 灰緑色シルト |
| 3 | 暗褐色粘質土 |
| 4 | 黄茶褐色粘質土 |
| 5 | 灰色シルト |
| 6 | 黄灰色粘土 |
| 7 | 青灰色シルト |
| 8 | 灰色粘土 |
| 9 | 灰色粗砂 |
| 10 | 青灰色粘土 |
| 11 | 暗茶褐色粘質土 |

15. 郡川遺跡(63-193)の調査

調査地 黒谷 439-1

調査期間 昭和 63 年 9 月 6 日 9 月 17 日～22 日

1. 調査概要

本調査は、宅地造成に伴って実施した遺構確認調査である。調査地周辺は、山麓に弥生から中世の集落遺跡に加え、高麗寺廃寺などの古代寺院の存在が知られており古くから開けた土地であったことがうかがわれる。また、山間部には前期から中期古墳を主体とする高安古墳群が存在している。今回の調査地周辺では過去の調査例がなく、遺跡の実態は全く不明であった。

事業者からの連絡を受け現地へ向かったところ既に擁壁及び排水施設工事がおおかた終了しており、調査地一帯に多量の土師器、須恵器等が散乱していた。そのため、散乱している遺物を探集し露出している断面観察を行うとともに、未破壊部分での調査を確約した。

調査は 9 月 17 日～22 日にかけて行い調査地東側に L 字のトレンチを設定し地表下 0.5m を機械掘削した後、以下人力にて精査を行なった。調査地の層序は、第 69 図に示した通りで、



第62図 調査地周辺図 (1/5,000)

厚さ約0.3mの盛土以下2層黄褐色小礫混じり微砂、3層暗青灰色砂礫混じりシルト、4層暗灰色粘質細砂、5層黄褐色細砂の堆積が認められ、3・4層は古墳時代の遺物包含層で5層上面が遺構面となる。また、トレンチ北東部分は、近世に若干削平を受けており包含層も認められず、トレンチ西側はゆるやかに傾斜し、南側は急激に落込む。



第63図 調査区設定図 (1/1,000)

2. 検出遺構



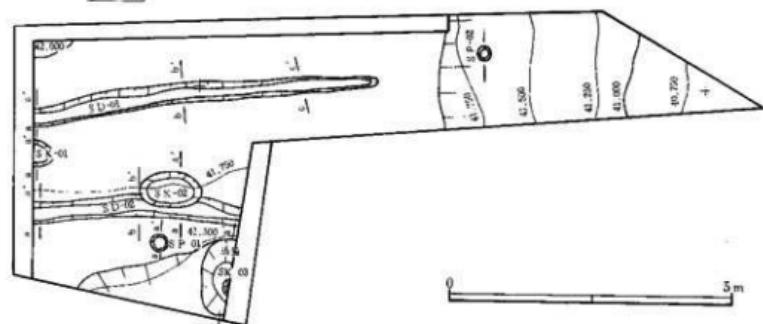
第64図 SD-0 1断面図 (1/40)



1. 單色灰色砂質土

SD-0 1 幅0.35m、深さ0.1mの小溝で埋土は青灰色粘質シルトである。溝埋土より若干の須恵器片が出土した。時期はこの溝の検出向上に古墳時代中期の単純包含層である3層の堆積が認められたことから、古墳時代中期以前のものと考えられる。

SD-0 2 幅0.35m、深さ0.1mのSD-01とほぼ同規模の溝でSK-02に切ら



第56図 調査区設定図 (1/100)

れる。遺物は出土しなかったがSD-01とほぼ同時期のものと考えてよからう。

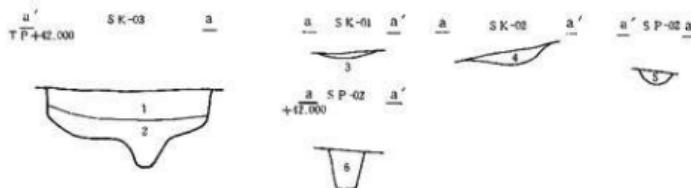
S K - 0 1 トレンチ北側で検出した短径 0.4 m、深さ 0.04 m の皿状の土壙で埋土は、黒灰色粘質土であり遺物は出土しなかった。

S K - 0 2 SD-02 を切込む長径 1.15 m、短径 0.6 m、深さ 0.1 m の格円形の土壙で、埋土は暗青灰色シルトで遺物は出土しなかった。

S K - 0 3 長径 1.2 m、深さ 0.6 m の土壙で埋土は暗茶灰色粘質微砂、灰黑色砂礫混じり粘質土の2層である。遺物はほとんど出土しなかったが、土壙検出面直上より馬齒が出土した。

S P - 0 1 直径 0.2 m、深さ 0.1 m のほぼ円形のP i tで、埋土は暗灰色粘質微砂である。

S P - 0 2 南側落込みで検出された直径 0.2 m、深さ 0.3 m のほぼ円形のP i tで、埋土は灰黑色粘質土である。



第57図 Pit、土壙断面図 (1/40)

- | | |
|-------------------|-----------|
| 1 暗茶灰色粘質微砂 | 4 暗茶灰色シルト |
| 2 灰黑色砂礫混粘質土(含炭化物) | 5 暗灰色粘質微砂 |
| 3 黑灰色粘质土 | 6 灰黑色粘质土 |

3. 出土遺物

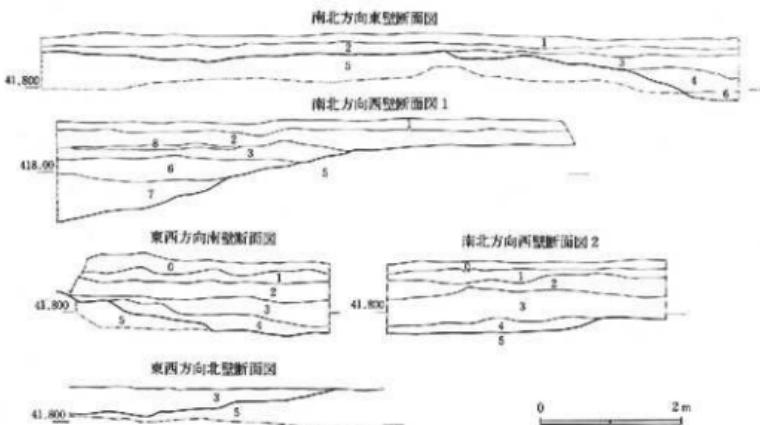
出土遺物は多量であったがほとんどが細片であり図化するに至らなかったため表探資料を掲載した。時期は幅広くTK208～TK217までの須恵器と布留甕(68)、甌(73～85)、土釜(72)、ふいごの羽口(86)などがあり、また、図化しなかったが製塙土器、鉄碎、鉄釘なども出土した。



第68図 出土馬鹿夷測図(1/3)

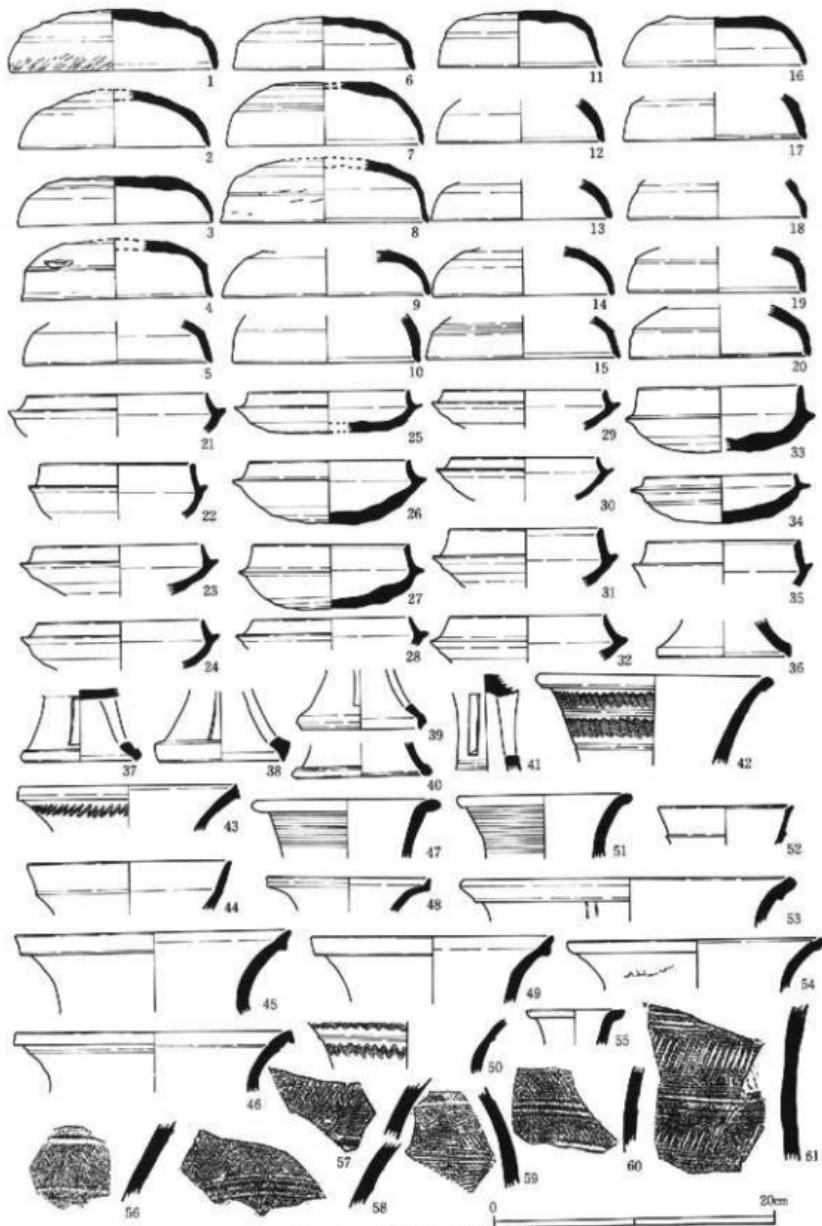
4.まとめ

今回の調査は、調査以前に既に遺跡の中心部が破壊されておりさらに調査面積も限定されていたことから、遺跡の実態を十分に把握することができず残念でならない。調査で得られた資料と表探遺物の性格から推察すると、ふいごの羽口、鉄碎、製塙土器、馬歯など製鉄遺跡から出土する遺物と共通しており、このことから当該地が製鉄遺跡であると考えられるが、鉄釘やNO.41の高杯などからは古墳が存在した可能性も考えられる。(近江)

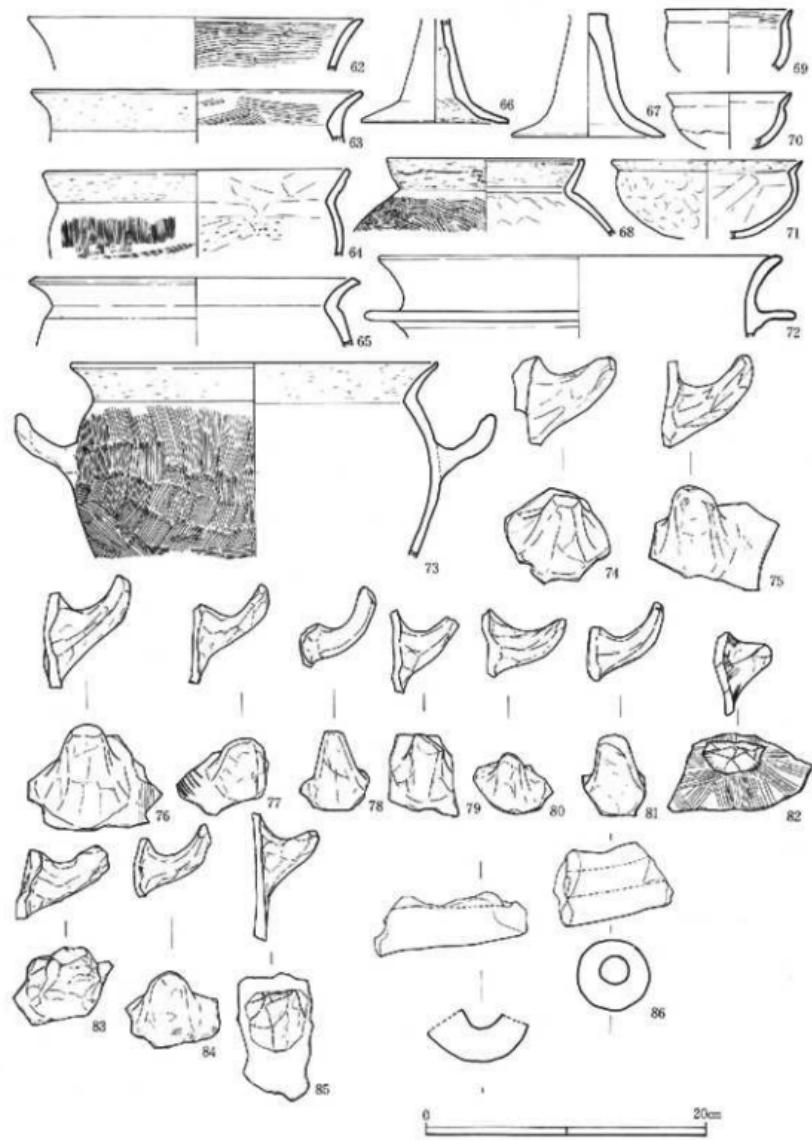


第69図 土層断面図(1/80)

0 盛土	5 黄褐色細砂(ベース)
1 旧耕土	6 暗黃褐色粘質土
2 黄褐色小礫混り微砂	7 灰黑色砂礫混粘質土
3 暗青灰色砂礫混リシルト	8 灰褐色微砂
4 暗灰褐色粘質細砂(含炭化物)	(包含層)



第70圖 表揅須惠器夾測圖 (1 / 4)



第71図 表探 土師器実測図 (1 / 4)

	口 径	器 高	色 調	備 考		口 径	器 高	色 調	備 考
1	F.15.0	4.5	暗青灰色		44	F.15.0		暗灰色	
2	F.13.8		青灰色		45	F.20.0		青灰色	
3	F.14.0	3.5	暗灰色		46	F.20.0		暗青灰色	
4	F.14.0		青灰色		47	F.13.0		青灰色	
5	F.13.6		明灰色		48	F.12.0		青灰色	
6	F.13.0	3.8	青灰色		49	F.17.6		青灰色	
7	F.14.4	4.5	淡灰色		50			淡灰色	
8	F.15.0		淡青灰色		51	F.12.6		明灰色	
9	F.15.0		灰 色		52	F.10.0		青灰色	
10	F.13.4		青灰色		53	F.23.4		青灰色	記号文アリ
11	F.14.0	4.0	暗青灰色		54	F.18.2		灰白色	
12	F.12.0		淡灰色		55	F.7.0		明灰色	
13	F.13.0		青灰色		56			暗灰色	
14	F.13.0		青灰色		57			灰 色	
15	F.14.0		青灰色		58			淡灰色	
16	F.13.2	3.4	青灰色		59			黑灰色	
17	F.13.2		淡青灰色		60			淡青灰色	
18	F.12.8		青灰色		61			青灰色	器台脚部
19	F.12.8		暗青灰色		62	F.24.0		暗褐色	
20	F.12.0		暗青灰色		63	F.23.6		暗褐色	
21	F.13.0		淡青灰色		64	F.21.8		淡褐色	
22	F.11.4		青灰色		65	F.24.0		淡赤褐色	
23	F.12.0		青灰色		66	F.10.6		淡赤褐色	
24	F.12.0		淡青灰色		67	F.10.9		淡赤褐色	
25	F.11.5	3.0	暗青灰色		68	F.14.4		暗褐色	
26	F.11.4	4.6	灰 色		69	F.9.4		淡褐色	
27	F.11.2	4.6	灰 色		70	F.8.8		淡褐色	
28	F.11.4		青灰色		71	F.14.0		淡赤褐色	
29	F.12.0		明灰色		72	F.31.2		暗褐色	
30	F.10.8		明灰色		73	F.26.4		灰褐色	
31	F.10.8		青灰色		74			暗茶褐色	
32	F.11.4		淡青灰色		75			暗褐色	
33	F.12.0	4.7	淡青灰色		76			淡赤褐色	
34	F.11.0	3.5	暗青灰色		77			暗褐色	
35	F.11.0		青灰色		78			淡赤褐色	
36	F.10.0		青灰色		79			淡赤褐色	
37	F.8.0		暗青灰色		80			淡赤褐色	
38	F.8.8		青灰色		81			淡褐色	
39	F.8.4		明灰色		82			淡褐色	
40	F.9.2		青灰色		83			赤褐色	
41			青灰色		84			淡赤褐色	
42	F.16.6		黑灰色		85			暗褐色	
43	F.16.0		青灰色		86			淡褐色	ふいご羽口

表2 出土遺物計測表

16. 成法寺遺跡(63-307)の調査

調査地 南本町1丁目10の1

調査期間 昭和63年9月21日

1. 調査概要

法隆寺遺跡は、八尾市南本町から清水町、光南町一帯に所在する弥生時代～古墳時代の遺跡である。当該地周辺においても、古墳時代の円形周溝墓や竪穴式住居が発掘調査により検出されている。大阪シーリング印刷(株)の事務所建設予定地に、 $2 \times 2\text{ m}$ のグリットを2箇所設定して、試験掘りによる断面観察を実施した。

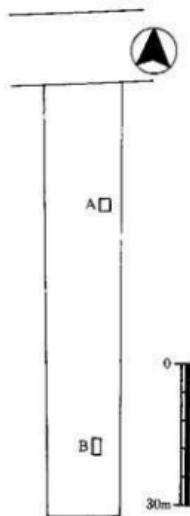
調査地の基本層序は別図のとおりで約1m～1.2mの盛土を除去すると旧耕土に達し、以下約40cm掘り下げるとき、厚さ約20～30cmの古墳時代の土器を含む遺物包含層が存在する。この包含層は、暗灰色～暗茶灰色の砂混じり粘土で、北側の調査区では、何らかの遺構を想定できる状況であった。

2.まとめ

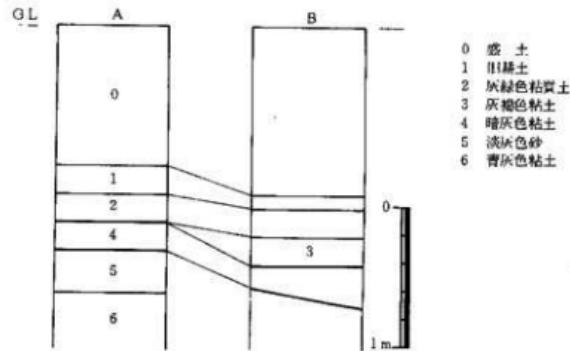


第72回 調査地周辺図 (1/10,000)

本調査地の地下においては、約 1.4 ~ 1.5 m 以下に遺物包含層が存在し、遺構の存在が想定される。これらは、当調査地に隣接する府道拡幅時に検出された弥生時代~古墳時代の遺構群と関連するものと思われる。(米田)



第73図 調査坑設定図 (1/1,200)



第74図 基本層序模式図 (1/40)

17. 久宝寺遺跡(63-301)の調査

調査地 八尾市久宝寺4丁目 74.76 他

調査期間 昭和63年9月28日

1. 調査概要

久宝寺遺跡は、河内平野のほぼ中央に位置する縄文～鎌倉時代に至る複合遺跡である。今回の調査は、久宝寺4丁目 74.76 地内において株式会社古川鋳造所より、共同住宅建設を計画している旨の届出に基づき実施した。

今回の調査地は、顯證寺に接し、また、南接する地点では昭和62年度に試掘調査を実施しており、その結果 G.L. - 2.5 m に古墳時代の包含層を確認していることなどから、当該地でも同様の包含層の存在が想定され、また、久宝寺寺内町関係の遺物の出土も考えられた。

調査は、申請地内に、 3×3 m のグリッドを 2箇所設定し、機械と人力を併用して、G.L. - 3.5 m まで掘削を行なった。

両グリッドとともに厚さ 1.4 m の盛土及び旧耕土を、除去すると暗灰色粘土層 (層厚 0.4 m)、

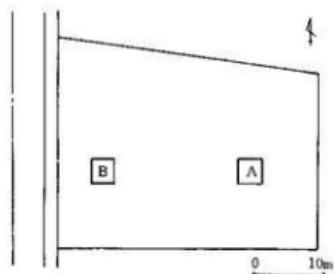


第75図 調査地周辺図 (1/5,000)

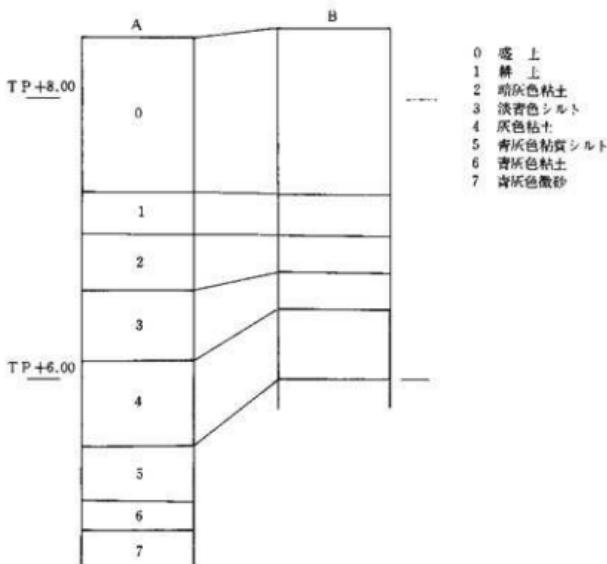
淡青灰色シルト（0.5 m）の堆積がみられ、その直下の灰色粘土層（0.6 m）に上飾器片が認められた。以下、青灰色粘質シルト（0.4 m）、青灰色粘土層（0.2 m）、青灰色微砂層の堆積が認められたが、それらの層より遺物の出土は見なかった。

2.まとめ

今回と62年度に行われた調査の結果、この付近に古墳時代の遺構が存在することが想定され、旧耕土内より近世の瓦等が出土したことから、久宝寺寺内町に関係する何等かの遺構の存在も考えられる。（近江）



第76図 調査区設定図 (1/800)



第77図 基本層序模式図 (1/40)

18. 東郷遺跡(63-312)の調査

調査地 光町2丁目28番1他

調査期間 昭和63年10月7日

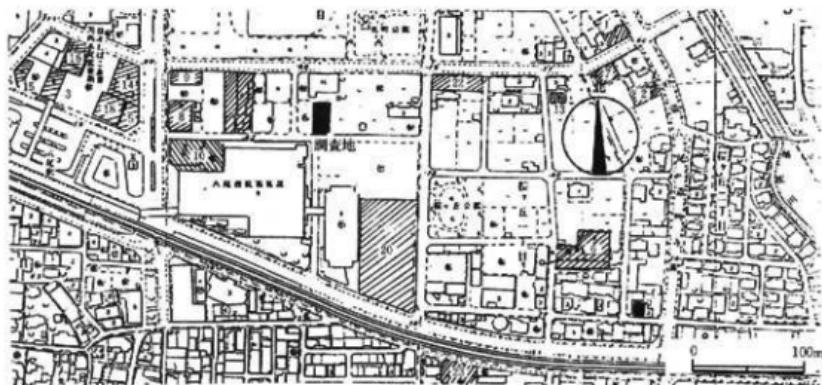
1. 調査概要

東郷遺跡は、河内平野の沖積地に営まれた弥生～中世に至る複合遺跡である。光町2丁目28番1地内において豊倉氏より共同住宅建設を計画している旨の届出に基づき発掘調査を実施した。

本調査地は、昭和61年度に(財)八尾市文化財調査研究会によっておこなわれた、八尾市文化会館建設に伴う発掘調査地に近接し、61年度の調査では、当遺跡の墓域が認められていであることから、当該地にも墓域が広がるものと考えられた。

調査は、申請地に 4×4 mのグリッドを2箇所設定し、GL - 2.0mまで機械と人力を併用し掘削を行った。

調査地は、1.0m～1.2mまで盛土がなされており約0.16mの旧土耕以下、灰緑色砂質土、灰緑色シルト、灰色砂質土が堆積し、その直下部分的に中世の包含層である淡褐色砂質土、さ

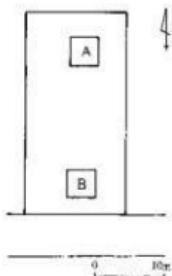


第78図 調査地周辺図 (1/5,000)

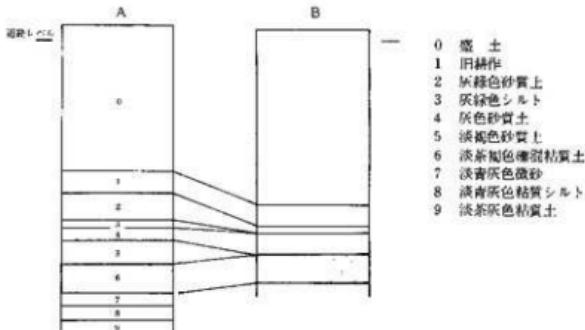
らに、微量ではあるが、古墳時代の遺物を含む淡茶灰色砂礫混じり粘質土の堆積をみとめた。さらに、その下層では方形周溝墓らしき造構も確認した。

2. まとめ

今回の調査では、遺物の量こそ少なかったが、基本層序が61年度の調査地とほぼ対応すること、また、造構の存在を認めたことなどから当該地も文化会館と同様に、東郷遺跡の墓域であると考えられる。(近江)



第79図 調査区設定図 (1 /800)



第80図 基本層序模式図 (1 /40)

19. 矢作遺跡(63-078)の調査

調査地 高美町4丁目12-1

調査期間 昭和63年10月22日～25日

1. 調査概要

本調査は、レストラン建設に伴って実施した遺構確認調査である。調査地周辺は、数次に渡る調査により弥生から近世の遺物の存在が明らかにされている。

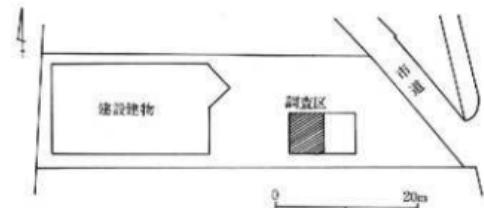
本調査は、建設予定建物の浄化層部分に $1.5\text{m} \times 2\text{m}$ グリットを設定し機械により地表下 2.5m まで掘削を行なったところ2層茶褐色粘土から中世の土器片の出土が認められ、また3層暗茶褐色粘土質上、4層暗茶褐色礫混じり砂質土より古墳時代の遺物が出土した。これらのことから当該地には古墳時代と中世の遺構面の存在が想定されたため、浄化層部分全面を調査する必要があると判断し事業者と即刻協議を行なったが諸々の事情で調査面積 30m^2 、期間3日と非常に困難な状況で行なわざるを得なかった。そのため、調査対象面を古墳時代の面のみに限定することとした。



第81図 調査地周辺図 (1/10,000)

2. 検出遺構

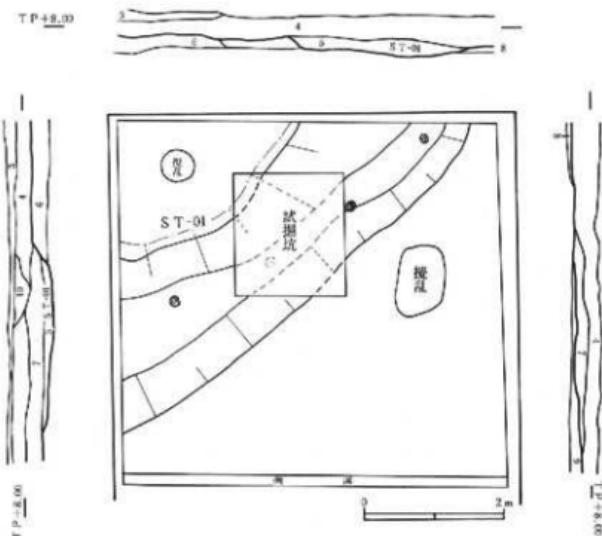
ST-01 調査地南西で検出した直径 11 m 程度の円形周溝墓であると思われる。周溝の幅は 2 m 程度、深さ 0.25 m 前後で埋土は炭化物を多量に含む黒灰色粘質土である。また、周溝内には直



第82図 調査区設定図 (1/800)

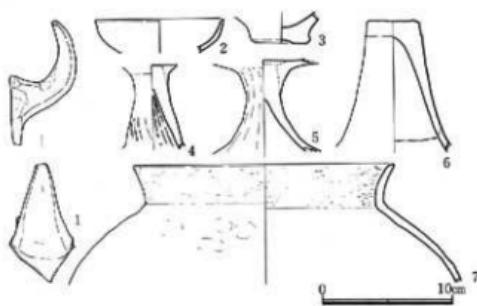
径約 0.12 m、深さ約 0.1 m 程度の小穴が約 1.3 m 間隔で認められた。墳丘は約 0.2 m 程残存していたが調査上の不備により、断面観察によりその存在を確認した。

遺物はタタキを持つ甕体部片をはじめとする細片が数点出土したのみで、時期を決定するには至らないが、周溝墓の時期を覆う 4 層は古墳時代前期から中期にかけての包含層であることから周溝墓の時期を布留古段階から中段階に求めることができよう。



第83図 調査地平面図 (1/800)

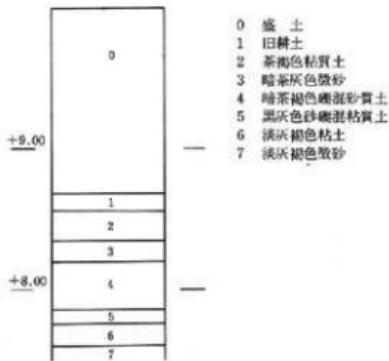
- 8 淡灰褐色粘質土
- 9 淡茶灰褐色砂
- 10 淡灰色粘質土(中世の土壌)



3.まとめ

今回の調査は調査上不備な点が重なり、十分な調査が行なえなかつた。しかし、成法寺遺跡について円形周溝墓を検出したことは、調査地近辺の墓制を考える上で興味深い成果である。(近江)

第84図 出土遺物実測図 (1/4)



第85図 基本層序模式図 (1/40)

20. 東郷遺跡(63-209)の調査

調査地 桜ヶ丘2丁目237

調査期間 昭和63年11月2日

1. 調査概要

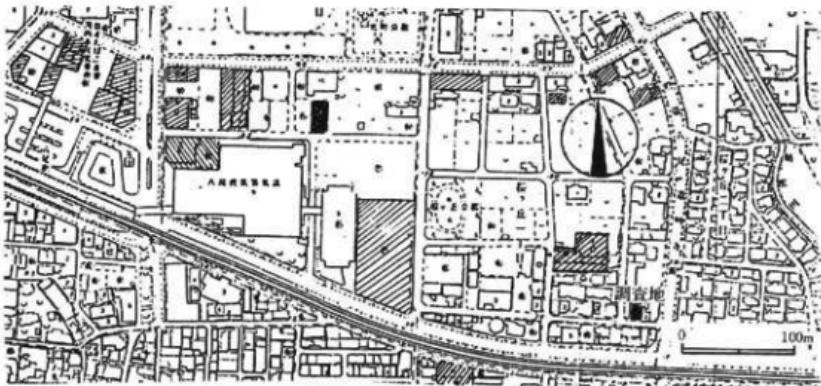
本調査は、住宅建設に伴って実施した遺構確認調査である。調査地周辺は数次に渡る調査により、古墳時代から中世の集落、墓域の存在が確認されている。

本調査は、調査地中央に $2.1 \times 4.6\text{m}$ のグリットを設定し、地表下 0.4m までを機械掘削し以下 0.5m を人力で精査した。

調査地の基本層序は、第89図に示した通りで、厚さ $0.2\sim 0.4\text{m}$ の盛土以下古墳時代から中世の包含層である1層黄褐色微砂、古墳時代の遺構面と思われる3層暗褐色砂礫混じり粘質土の堆積が認められ、またグリット北側で2層黄褐色微砂も認められた。

2. 検出遺構

SD-01 グリット南側で検出した中世の溝と思われ、幅 0.36m 、深さ 0.07m でその性格等は不明である。



第86図 調査地周辺図 (1/5,000)

S K - 0 1 グリット北東側で検出した深さ0.18mの土塙で遺物は出土しなかったが、時期は北側落込みとの関係から古墳時代前期のものと思われる。

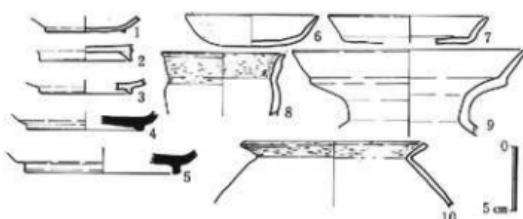
S K - 0 2 S D - 0 1 を切り込む短径0.36m、深さ0.05mの断面直状の土塙で中世のものと思われる。

S P - 0 1 長径0.26m、深さ0.1mのやや楕円形の Pit で、遺物は出土しなかった。

S P - 0 2 長径0.24m、深さ0.15mの円形の Pit で埋土は暗青灰色粘土であり時期的にも他の遺構より新しいものと思われる。

3. 出土遺物

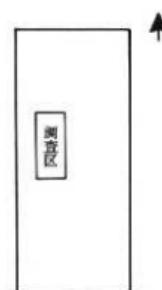
出土した遺物はほとんど細片で図化できるものは少ない。時期は、古墳時代から中世と幅広く黒色土器(1, 2)、瓦器椀(3)や庄内の二重口縁壺(9)などがある。



第37図 出土遺物実測図 (1/4)

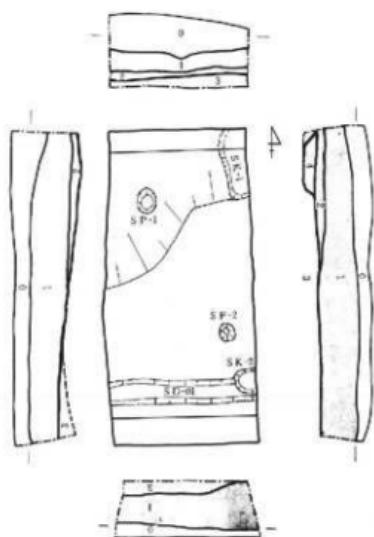
4.まとめ

今回の調査では古墳時代のものと思われる遺構と中世の遺構がみられたことから、東郷遺跡の古墳時代の集落が当該地まで広がることが明らかになった。(近江)



第38図 調査区設定図 (1/400)

- 0 盛土
 1 暗茶灰色砂壤土
 2 黄褐色微砂
 3 暗褐色粘质砂
 4 暗褐色砂砾混粘质土



第89圖
調査地平面図 (1/80)

21. 恩智遺跡(63-361)の調査

調査地 恩智中町3丁目239, 257

調査期間 昭和63年11月18日

1. 調査概要

恩智遺跡は、縄文時代～弥生時代に至る代表的な集落遺跡である。当該地において、宗教法人正宝教本部より住居付教会建築を計画している旨の届出に基づき、当該遺跡の包含層の存在範囲を確認するため、11月18日に遺構確認調査を実施することとなった。

機械による掘削で、地表下1.4mで旧表土に達し、さらに1.6mで古墳時代の遺物を若干含む暗褐色砂れき土に達したので、手掘りに切替え、遺物を取上げ乍ら地表下2.4mの青灰色シルトまで慎重に掘下げた後、断面の観察を実施した。

断面精査の結果、当該遺跡にかかる弥生時代～古墳時代の濃密な遺物包含層は、地表下1.8m～2.4mに存在する黒褐色砂礫土内に存在することが明らかとなった。(第92図)

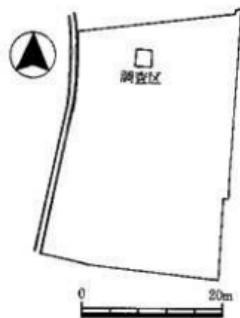
2.まとめ



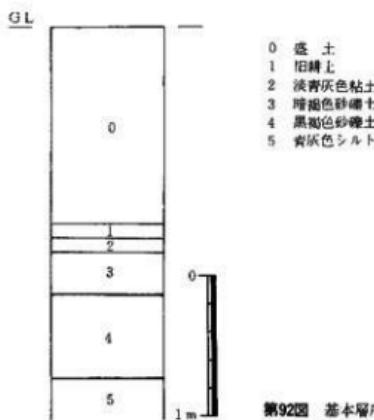
第90図 調査地周辺図 (1/10,000)

本調査地は、恩智遺跡の西南部に当たり、隣接する恩智川、マンション建設時にも発掘調査が実施され、数多くの遺構、遺物が出土している。

当該地では土層の堆積状況より、これらと同様の遺構、遺物の包蔵が予測され、基礎及び浄化槽の掘削深度を浅くすることによって遺跡の破壊が回避できる為、設計地盤を上げるように要請した。（米田）



第91図 調査区設定図 (1 /800)



第92図 基本層序模式図 (1 /40)

22. 小阪合遺跡(63-454)の調査

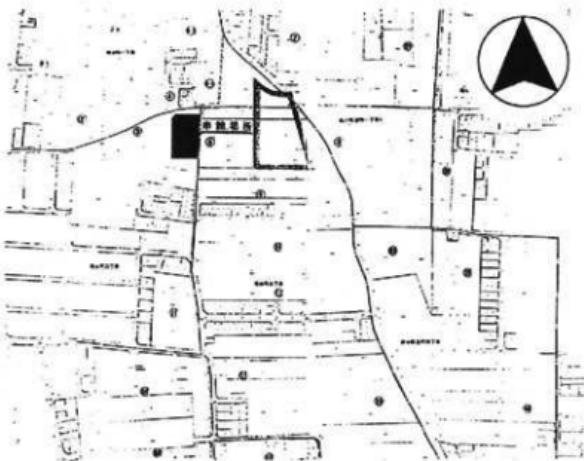
調査地 青山町3丁目2-1

調査期間 平成元年1月17日

1. 調査概要

小阪合遺跡は、弥生時代～室町時代に至るまでの複合集落遺跡である。当調査地は、この遺跡の北部に位置しており、付近の調査では、古墳、奈良時代や中世の遺構が確認されている。

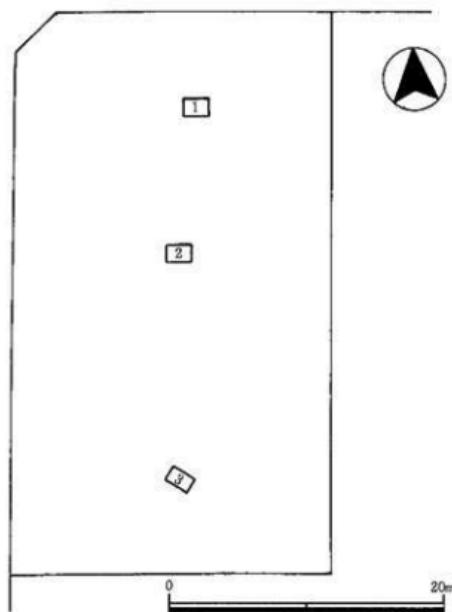
調査は、施工予定地内において、南北に3ヶ所の坪掘りを実施し、断面観察を行なった。その結果各調査において、地表下0.6m以下0.9mまでに中世～古墳時代の土器を含む遺物包含層の存在を確認した。



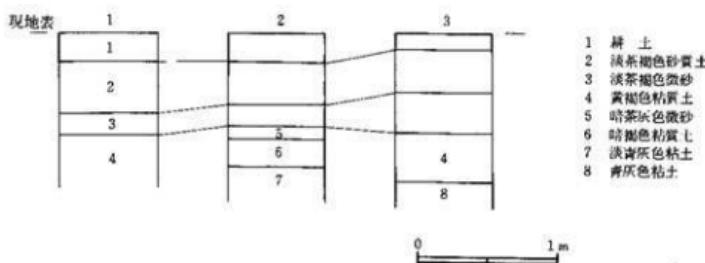
第93図 調査地周辺図 (1/5,000)

2.まとめ

当該地で検出した遺物包含層は、中世から古墳時代のもので、隣接地の調査で検出した遺構との関連が考えられる。(米田)



第94図
調査区設定図 (1 /400)



第95図 基本層序模式図 (1 /40)

23. 渋川廃寺(63-474)の調査

調査地 渋川町5丁目41番
調査期間 平成元年1月25日

1. 調査概要

渋川廃寺は、白鳳時代の寺院として知られており、渋川天神社付近のJR関西線の敷地内より、かつて塔心礎などが出土したとされている。また宝積寺の地名も残っている。当該地はこの廃寺跡とされている渋川天神社の隣接地であり、それに関連する遺構の検出が予測されるこ^トから、遺構確認の為に敷地内2ヶ所に $3 \times 3\text{m}$ 、 $2 \times 2\text{m}$ の調査区を設定して調査を実施した。

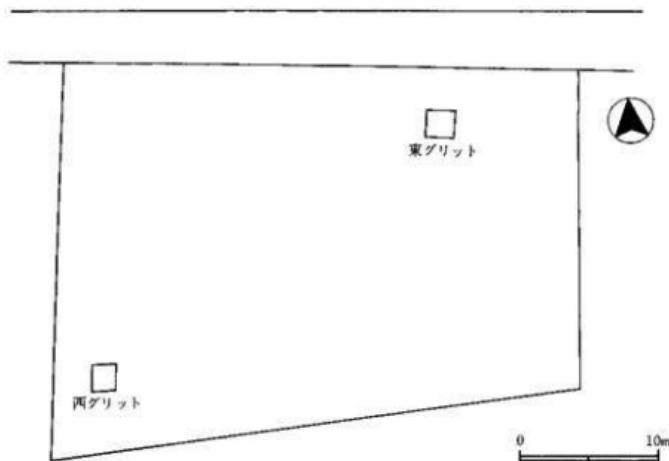
当該地は、約60cmの盛土がなされており、旧地表の標高は、9.00前後である。当敷地は、JR線に沿って東西に長い形状を呈している。

敷地の西南に設定した調査区では、現地表下1.1m以下1.3mまでに存在する黄灰色粘土層内に土器器片や古代瓦片を多数包含する上層が存在することを確認した。また、敷地東北に設定



第96図 調査地周辺図 (1/5,000)

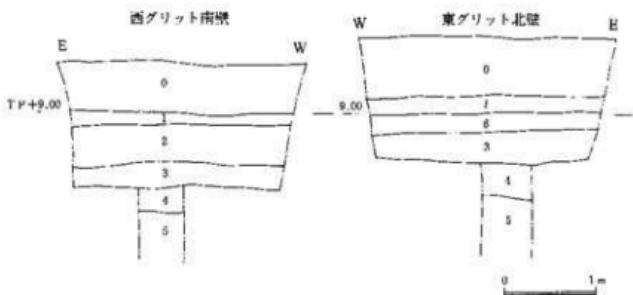
した調査区では、地表下1m以下1.4mまでに存在する暗黄褐色粘質土内に古墳時代後期の須恵器を含む遺物包含層を検出した。両調査区の遺物包含層は、ほぼ検出深度が一致することにより、同一の層位にあることが判る。このことより、当該地の地下1m以下には、遺物包含層及び遺構が埋没していることが明らかとなった。



第97図 調査区設定図 (1/400)

2.まとめ

本調査で、奈良時代の瓦等の遺物が出土したことにより、当該地が渋川廃寺の一画にあることを明らかにした。また、この寺跡より逆のほる古墳時代の遺物を検出したことは、当寺院の建立が物部氏と有機的関連性を持っていた可能性も見い出すことができる。これらのことは今後の発掘調査によって明らかにできるであろう。(米田)



第98図 土層断面図 (1/60)

- 0 盛土
- 1 旧耕土
- 2 黄褐色砂混粘土
- 3 黄褐色粘土
- 4 青灰色粘土
- 5 青灰色シルト粘土
- 6 青緑灰色微砂

24. 東郷遺跡(63-472)の調査

調査地 木町7丁目39-1

調査期間 平成元年1月26日

1. 調査概要

八尾市木町周辺は、旧八尾郷の中心地であり、中世以降の社寺や遺跡が多い地域である。当該地において、事務所、店舗、共同住宅を建築する旨の届出に基づき、敷地内で東西2ヶ所の調査区を設定して調査を実施した。

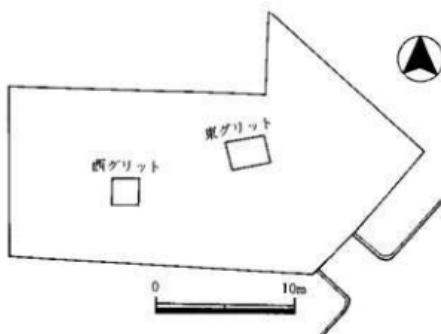


第99図 調査地周辺図 (1/5,000)

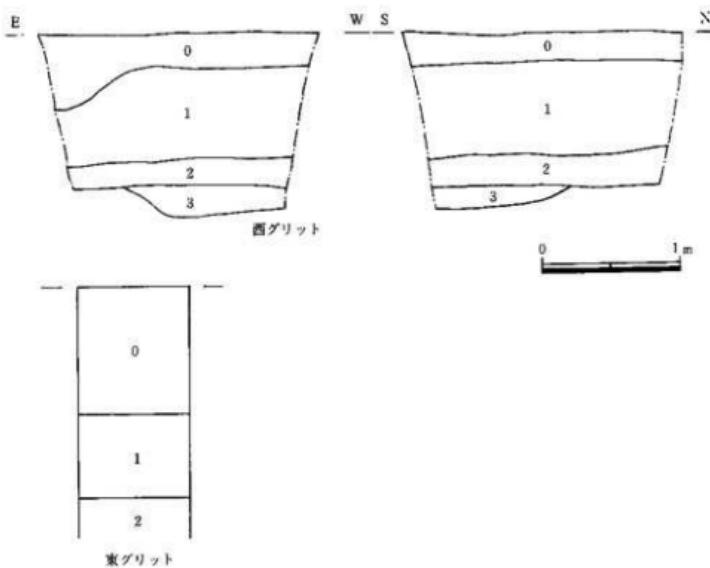
両調査区共、現地表下1mまで掘り下げると、暗灰色砂質土に達し、この中には、近世の遺物を多数包含している。1.2m以下は、黄褐色のシルトが厚く堆積する。中世の遺構は、この暗灰色砂質土と黄褐色シルトの間に存在している状況を西側の調査区で検出した。この遺構より鎌倉時代の瓦器多数が出土した。

2.まとめ

本調査で検出した遺物は、13世紀から19世紀までのものである。これらの遺構、遺物を調査することは、八尾郷町の成立を考える上で貴重な資料となるであろう。(米田)

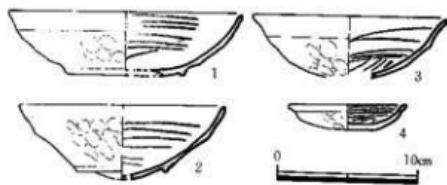


第100図 調査区設定図 (1/400)



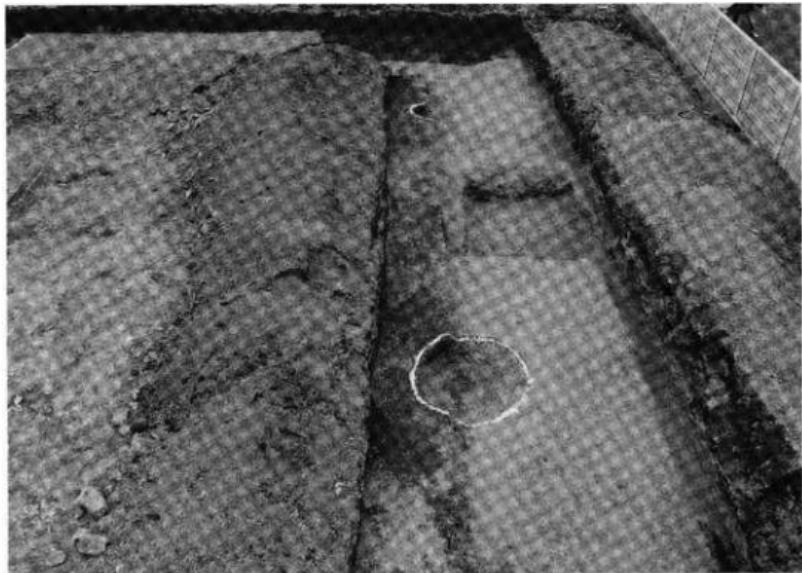
第101図 基本層序模式図 (1/40)

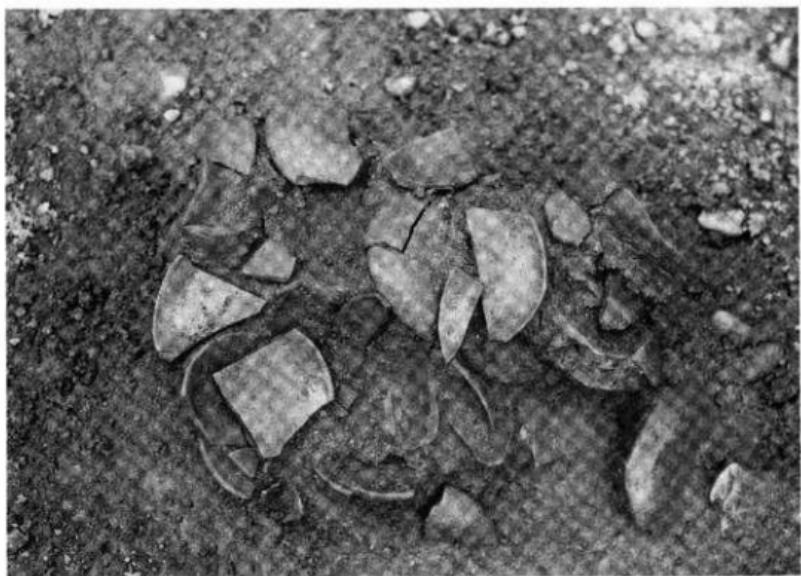
- | | |
|----------|-----------|
| 0 捨 灰 | 2 暗灰色砂質土 |
| 1 茶褐色砂質土 | 3 暗茶褐色砂質土 |

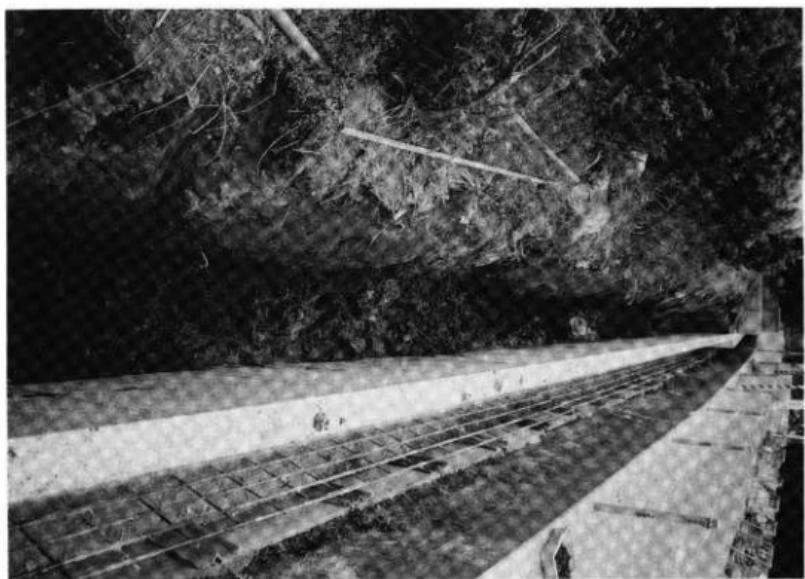


第102圖
出土遺物實測圖 (1/4)

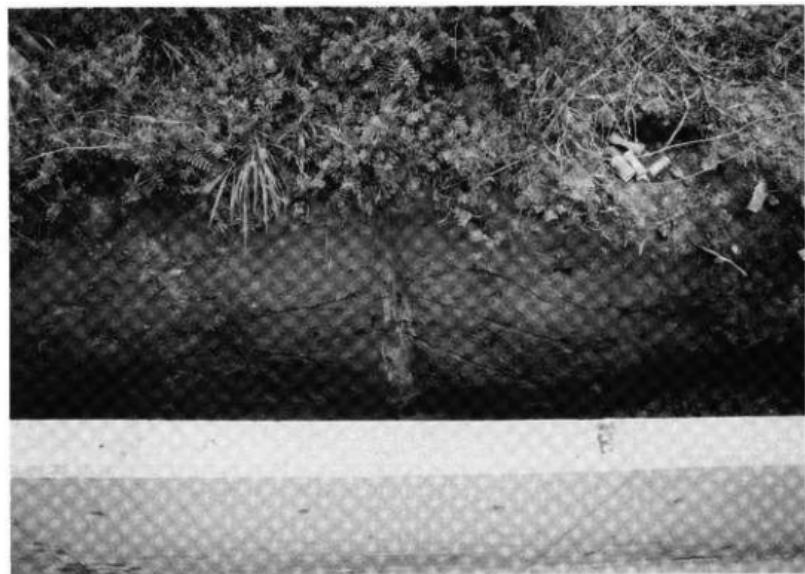
図版1 跡部遺跡（62—307）







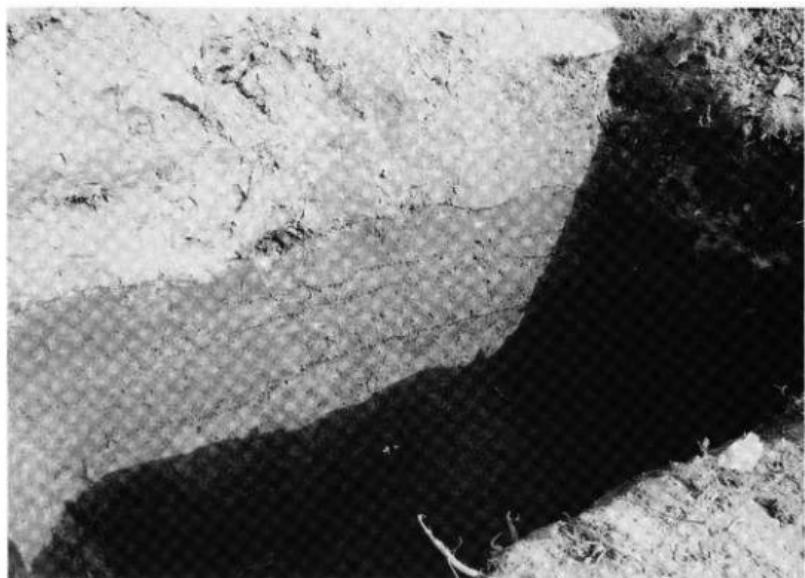
A地区



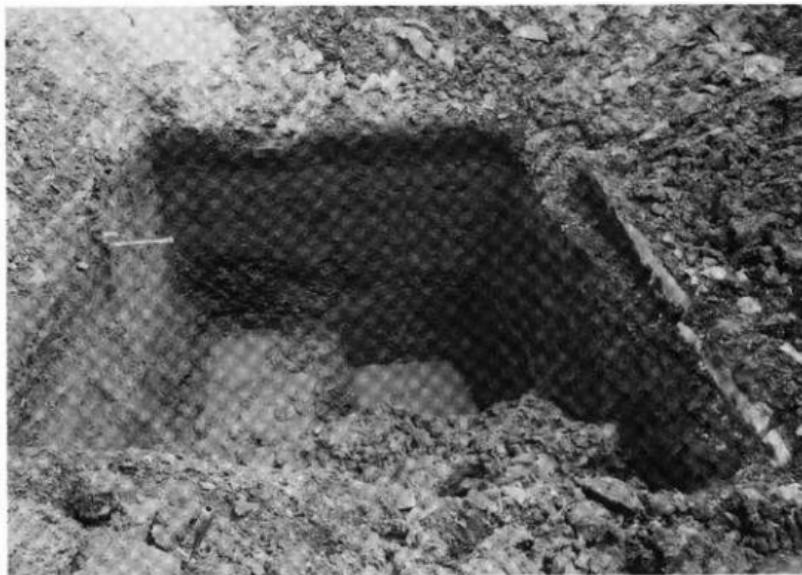
A地区土層断面



Bグリット



Cグリット



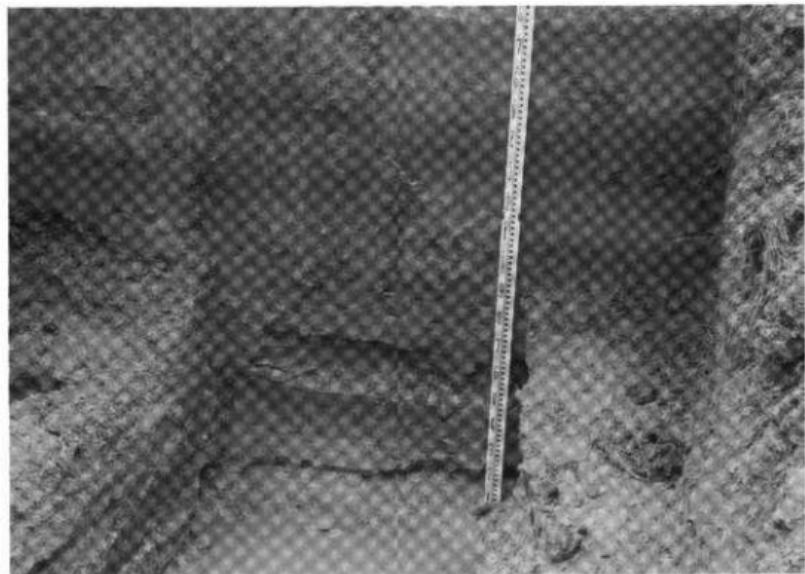
圖版 6 成法寺遺跡（63—05）



図版7 八尾南遺跡(63-084) 老原遺跡(63-150)



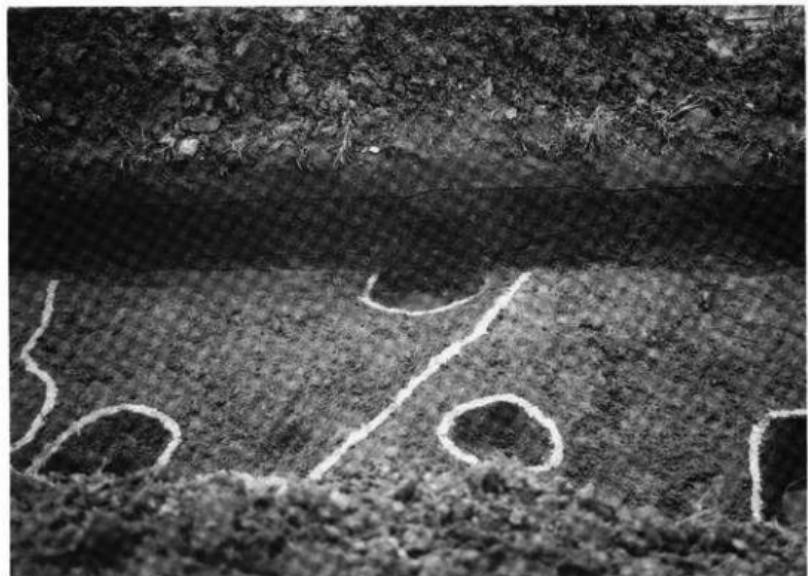
Bグリット



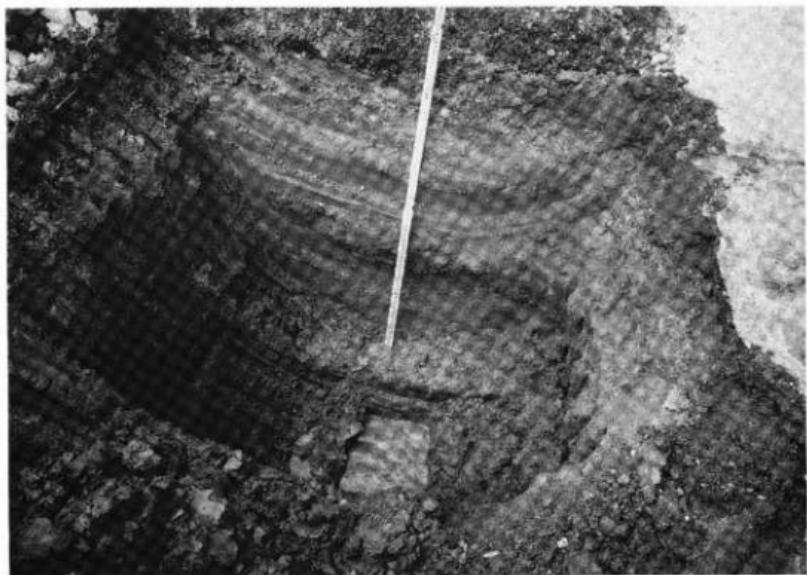
Bグリット



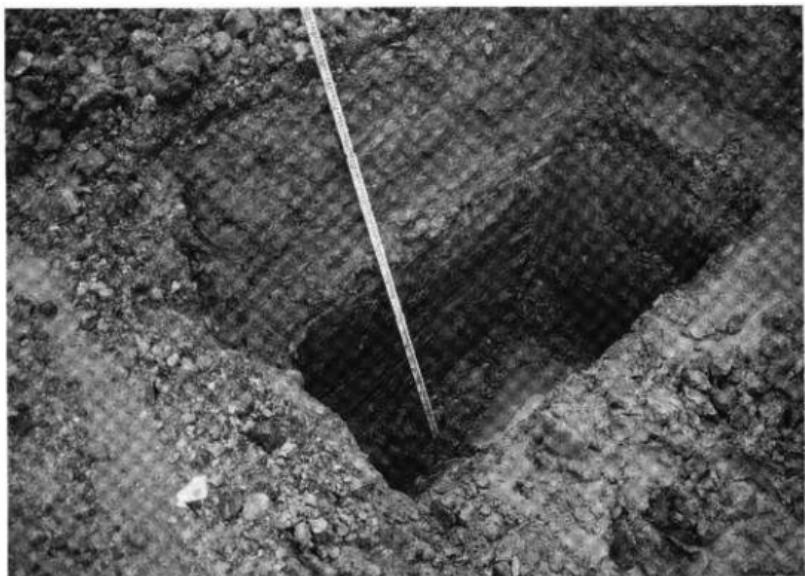
北から



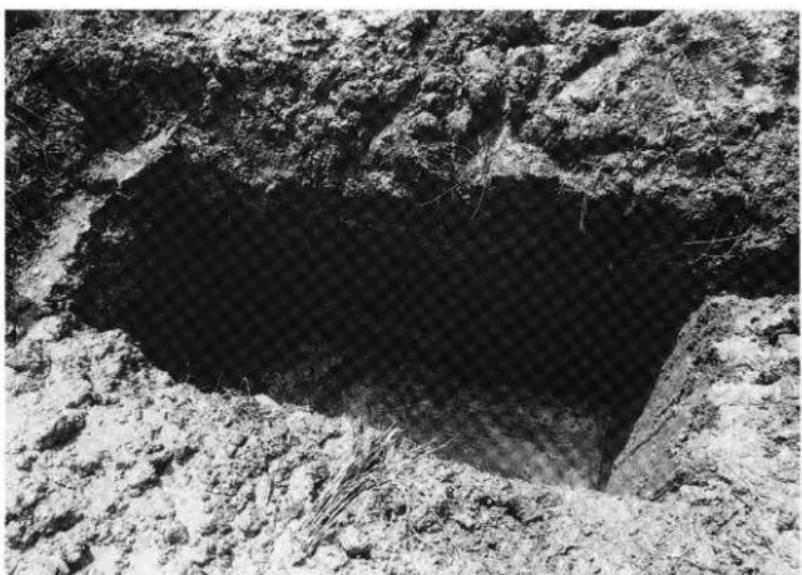
東から



Bグリット



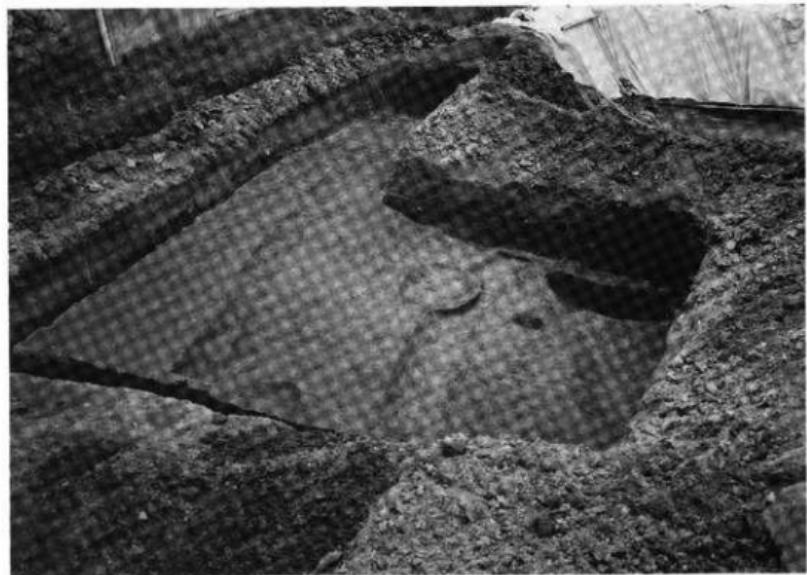
Cグリット



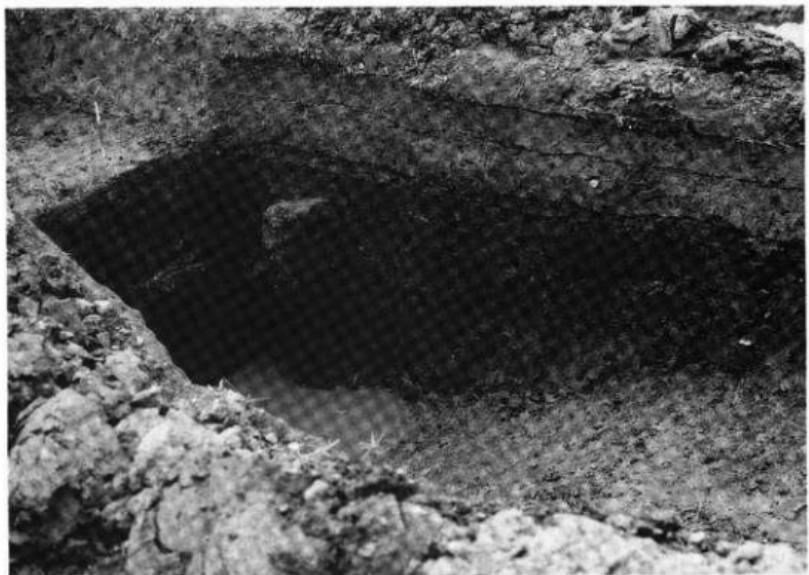
A グリット



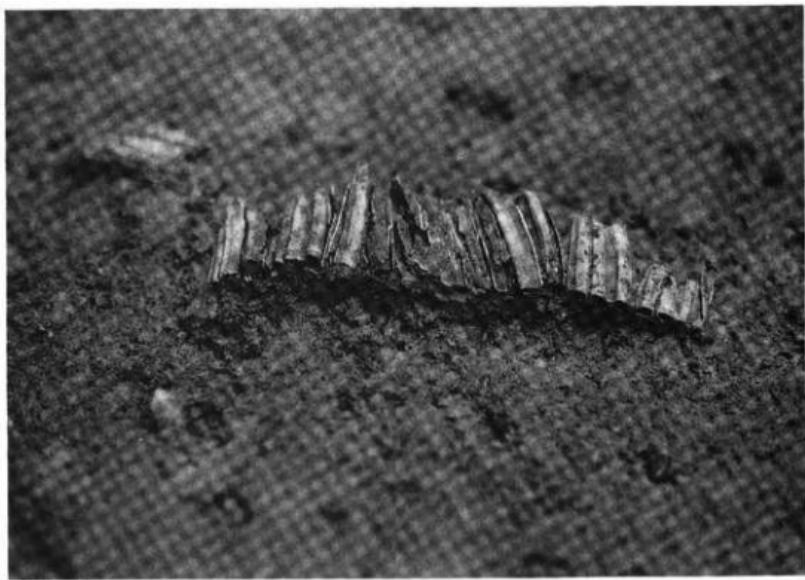
C グリット



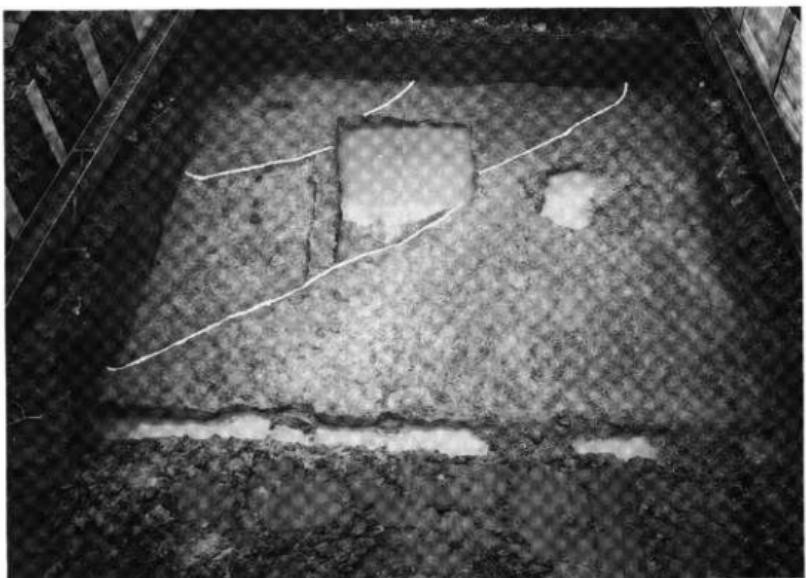
北から



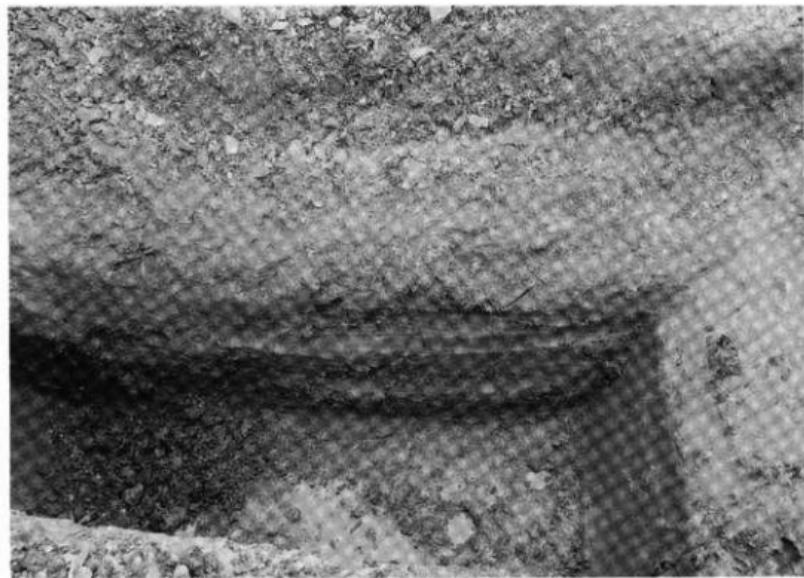
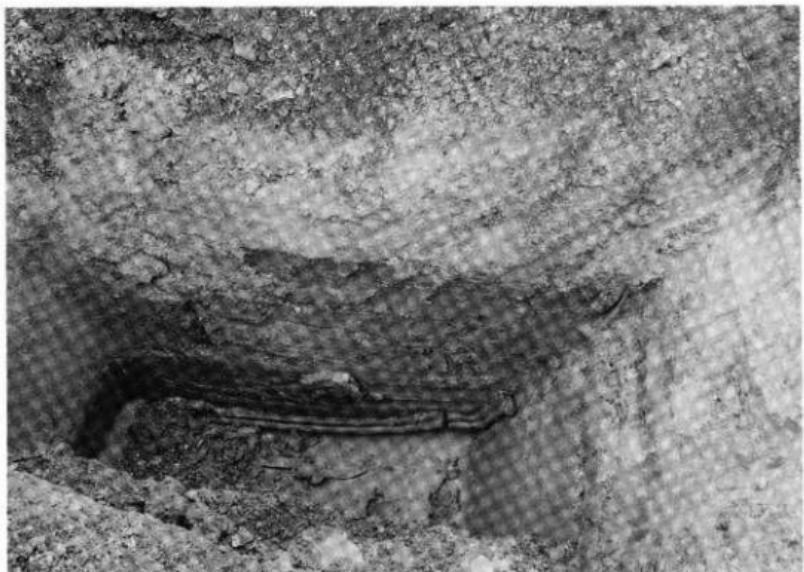
南側落ち込み

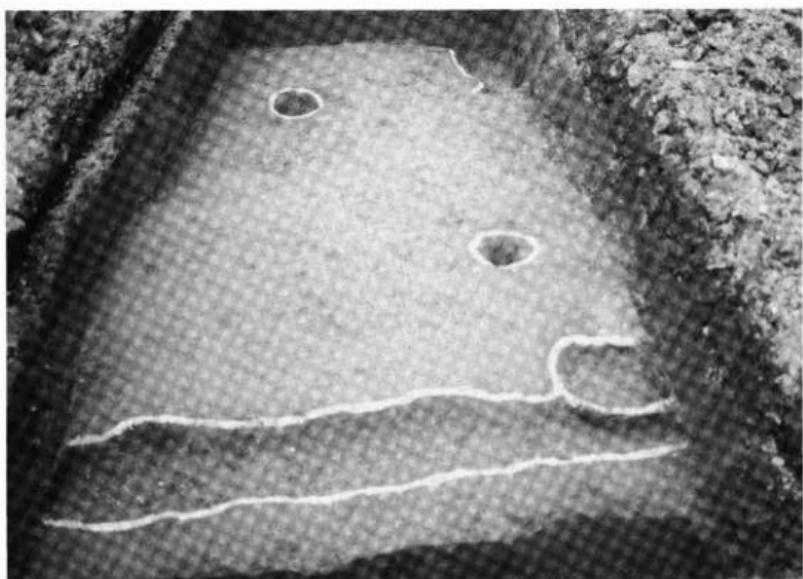


馬歯出土状況

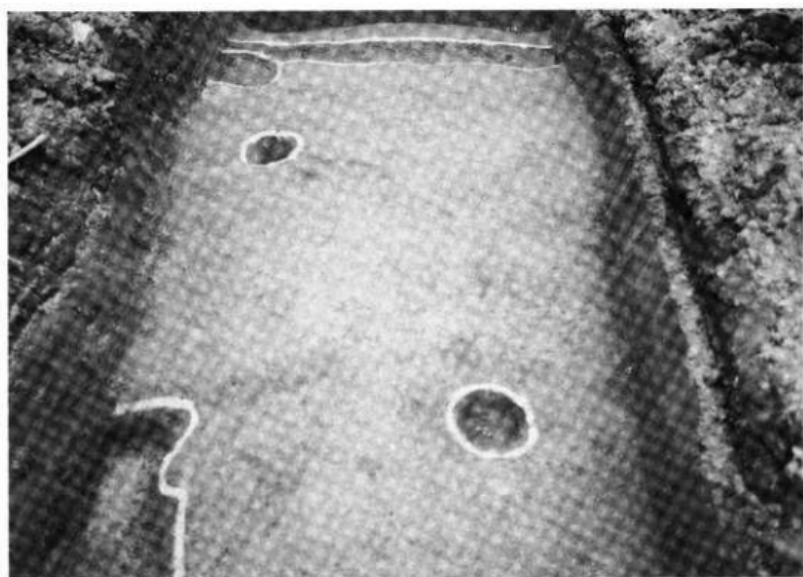


図版 14 成法寺遺跡（63—307）

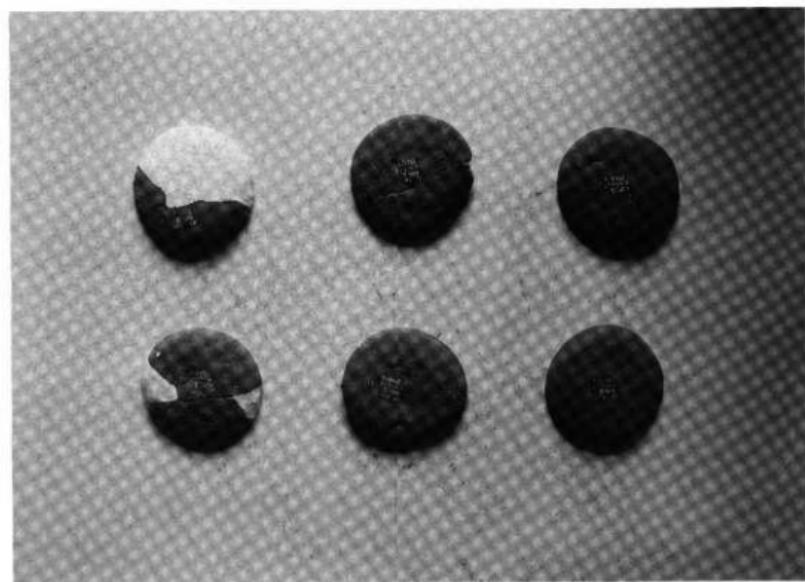
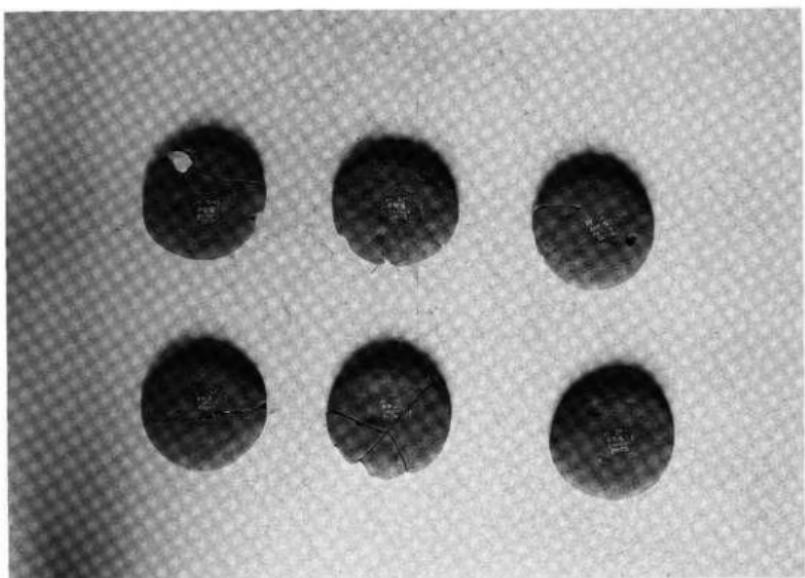


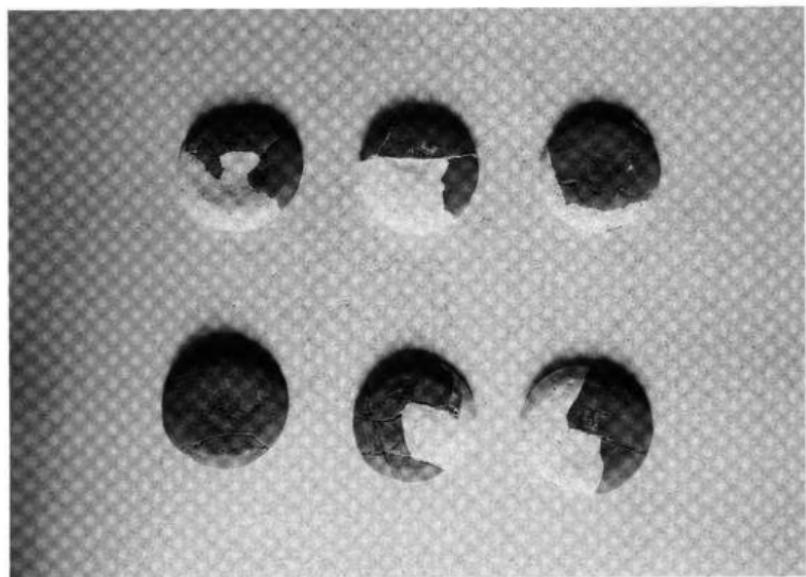
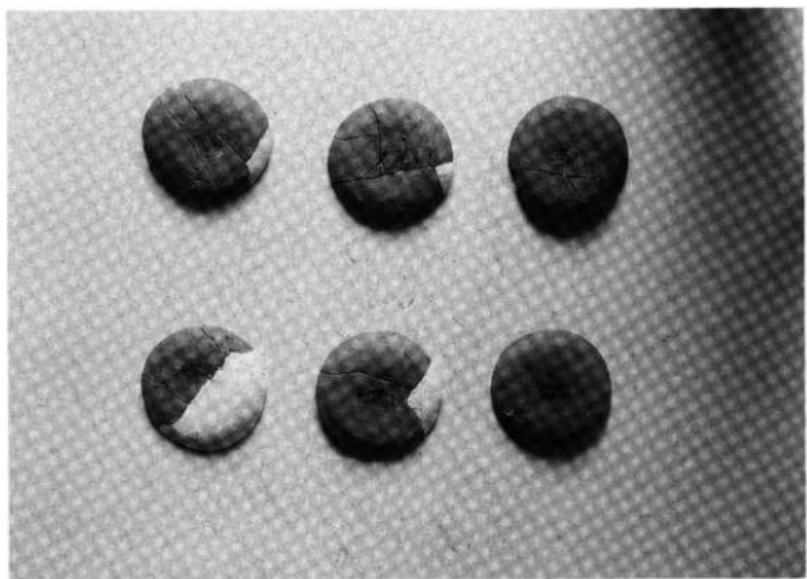


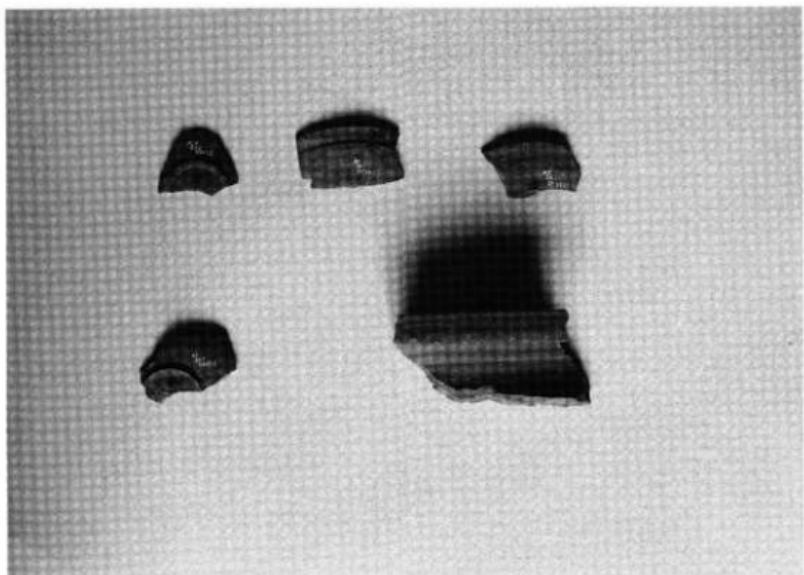
南から



北から



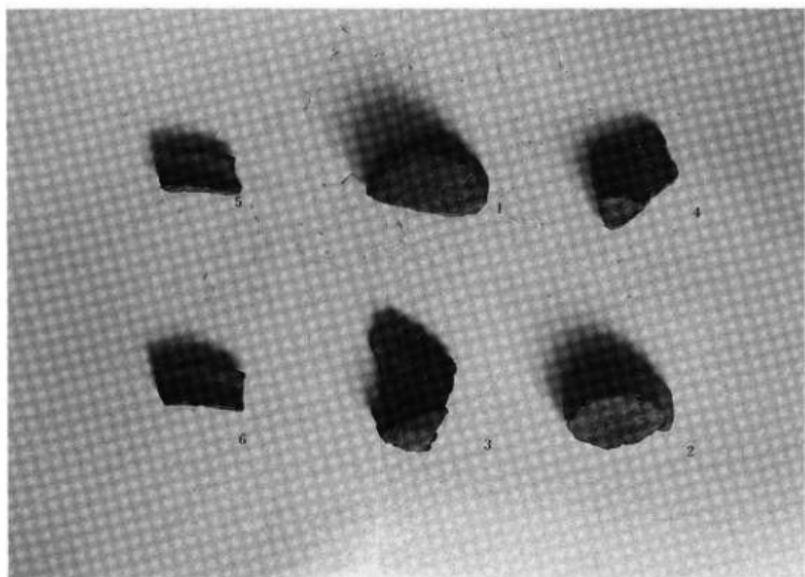




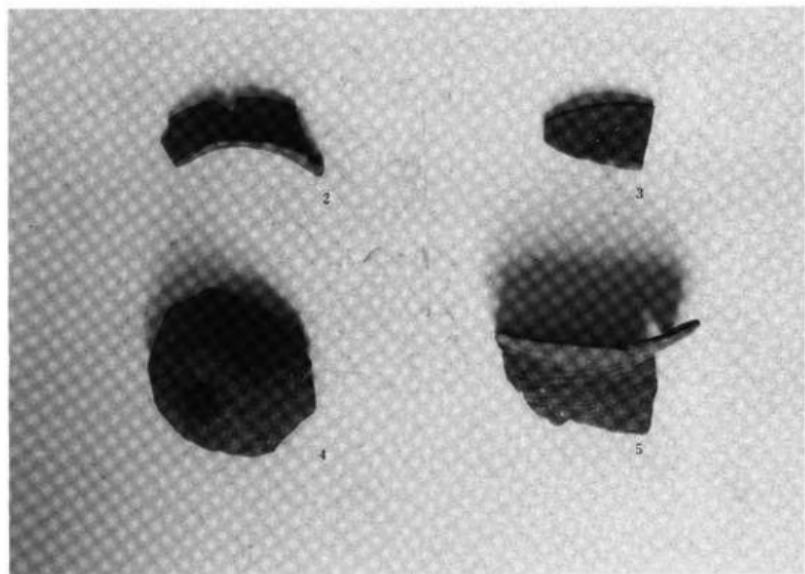
62—307 · SK01



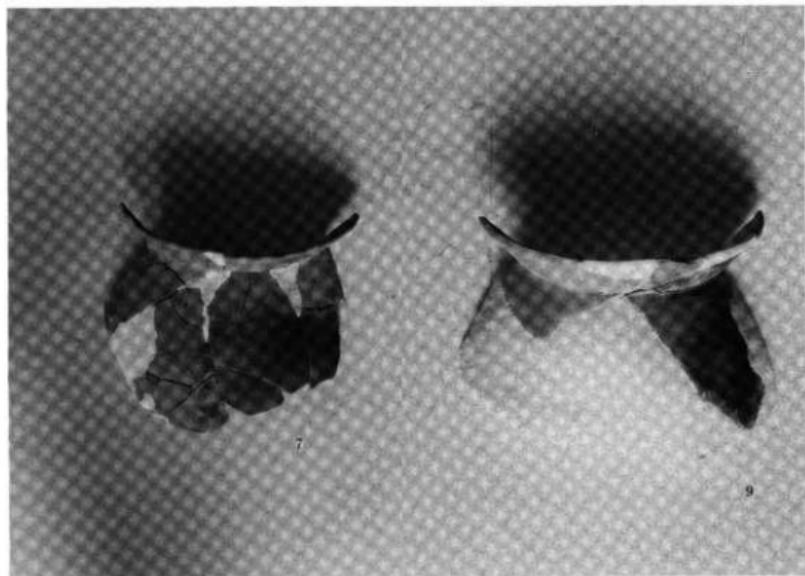
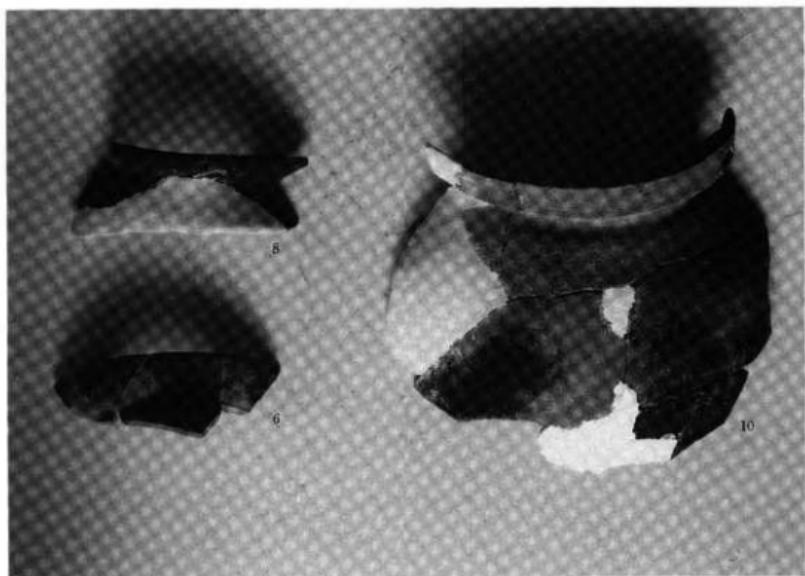
63—035



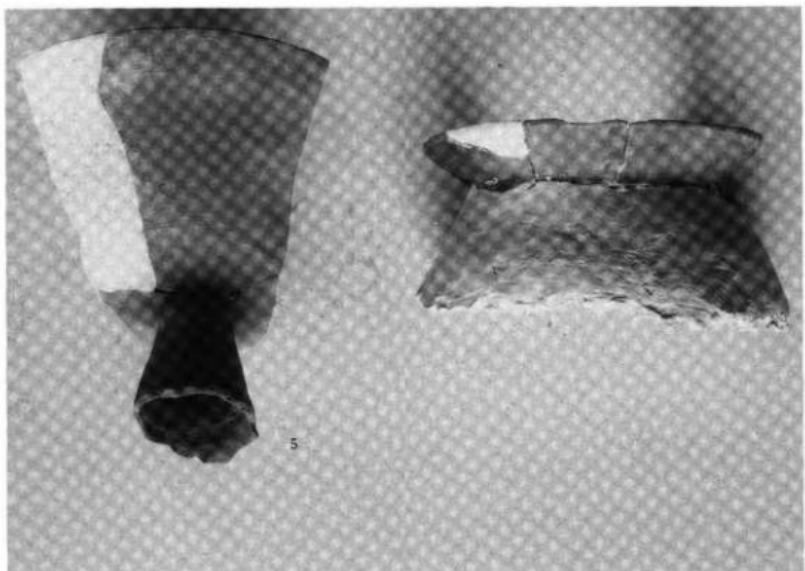
62—543



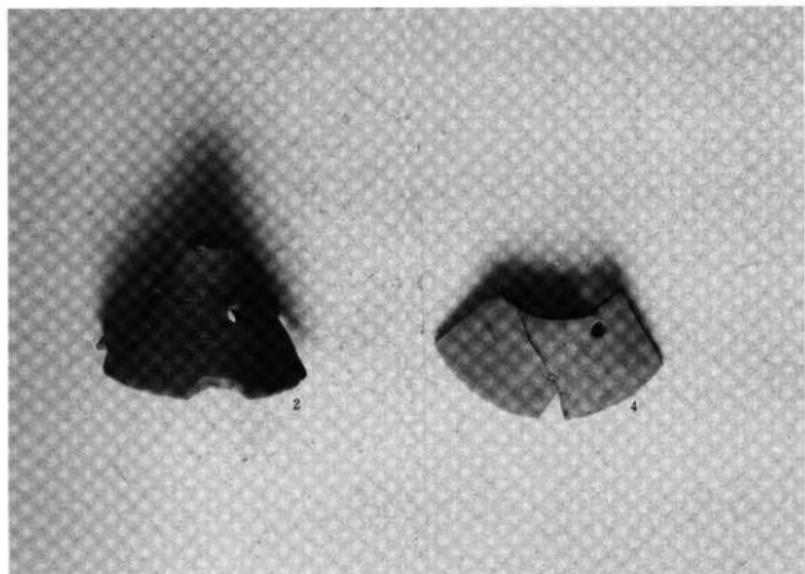
63—157



圖版21 久寶寺遺跡（63—25）出土遺物

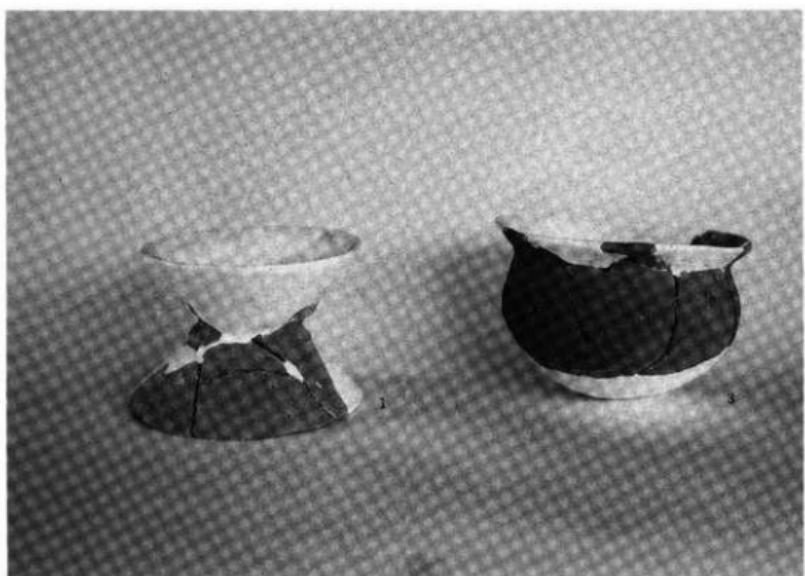


5

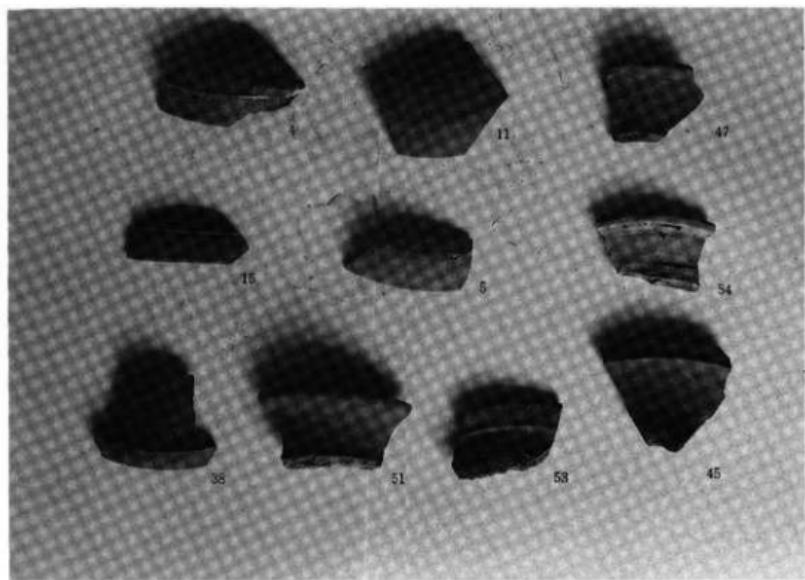


2

4

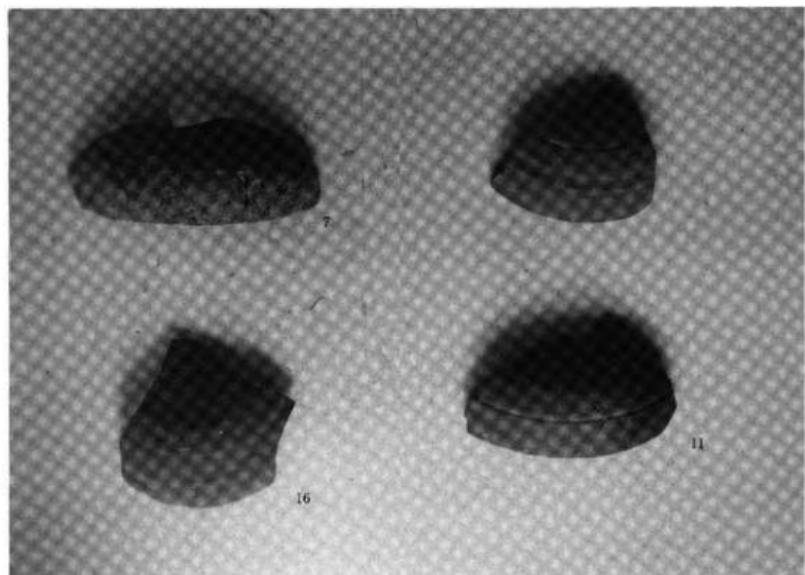
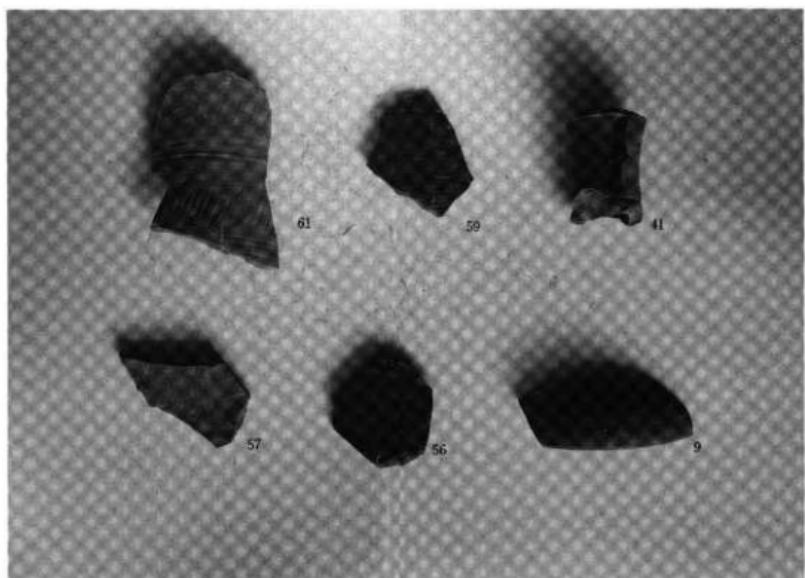


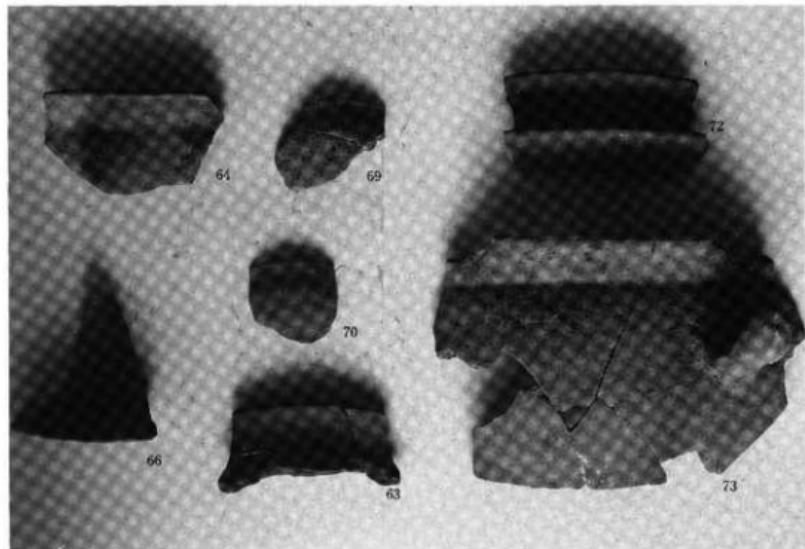
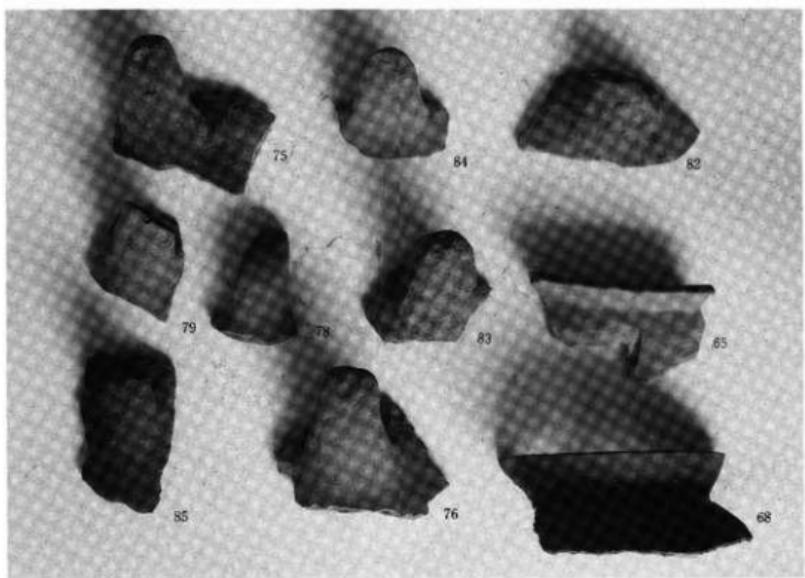
62—245

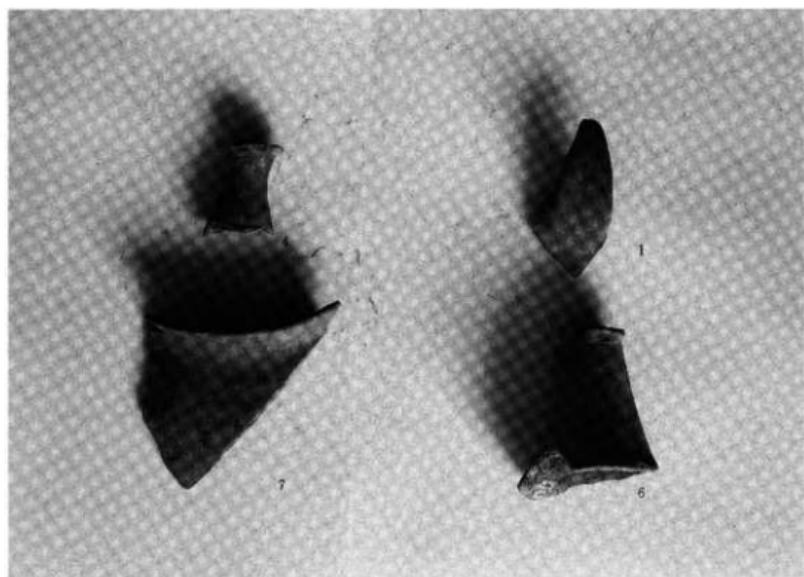


63—193

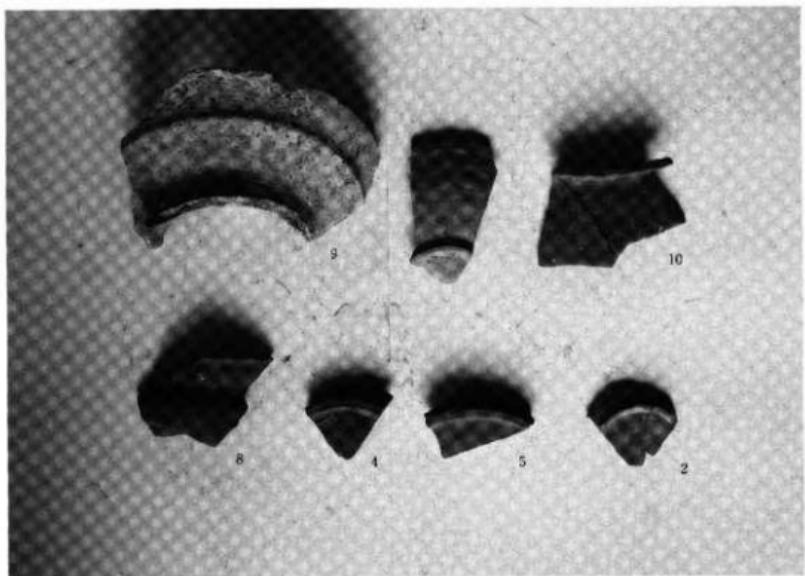
図版23 郡川遺跡（63—193）出土遺物







圖版 26 東鄉遺跡（63—209）出土遺物



八尾市文化財調査報告19
昭和63年度国庫補助事業

八尾市内遺跡昭和63年度発掘調査報告書 I

発行日 1989年3月

発行所 八尾市教育委員会

印 刷 近畿印刷センター

